



マイナビ進学総合研究所

2025年度進学トレンド総括

ver.1.2

分析対象

25年
3月卒

はじめに

冒頭ご挨拶

本資料の目的／今回の資料作成に使用したマイナビ進学実施調査一覧

本資料における短縮表記について／年度表記とコロナウィルス影響について

I. 高校生の進学を取り巻く環境

18歳人口及び高等教育機関入学者数・進学率の推移

選抜方式別入学者数の推移

短期大学の募集停止について

通信制高校の広がり

II. 25年3月卒生の活動タイミング

活動タイミング — TOP

活動タイミング — TOPICS（昨年結果）

進学先校の「認知時期」（年度比較）

進学先校の「認知時期」（学校種別ごと）

進学先校の「認知時期」（年度比較）（学校種別ごと）

進学先校の「認知時期」（累計）

進学先校の「資料請求時期」

進学先校の「イベント参加時期」※WEB含む

進学先校の「出願決定時期」

進学先校の「出願決定時期」（累計）

「資料請求時期」進学先校と非進学校との比較

「イベント参加時期」進学先校と非進学校との比較

「イベント参加割合」進学先校と非進学校との比較

「出願決定時期」進学先校と非進学校との比較

P.3

P.4

P.5

P.6

P.7

P.8

P.9

P.10

P.11

P.12

P.13

P.14

P.15

P.16

P.17

P.18

P.19

P.20

P.21

P.22

P.23

P.24

P.25

P.26

III. 25年3月卒生の学校選びに関する意識

P.27

学校選びに関する意識 — TOPICS

P.28

志望校検討に影響するイメージ（トレンド総括2023でも発表）

P.29

「学べる内容が充実している」学校のイメージ形成

P.30

志望校選びの際「重視するポイント」（昨年比較）

P.31

その学校を進学先として選んだ理由（昨年比較）

P.32

イベント参加にて、学校の志望度が上がったプログラム

P.33

（保護者調査）進路支援として「取り組んでいる」もしくは「取り組む予定であること」

P.34

（保護者調査）進路支援に関する家庭状況

P.35

進路検討時のマイナス要因

P.36

IV. 25年3月卒生の情報集め

P.37

情報集め — TOPICS

P.38

「進学すること」・「自身の将来を考えること」をどう感じているか

P.39

進路決定のために知りたかったこと／やって欲しかったこと

P.40

オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報

P.41

イベント参加で知りたいことを解消できたか

P.42

志望校を決めた際、苦労したことや迷ったこと

P.43

“年内入試で合格した学校”に入学までに準備しようと思っていること

P.44

V. 2026年3月卒（新高校3年生）の展望

P.45

26年3月卒（新高校3年生）の展望

P.46

26年3月卒（新高校3年生）の進路検討状況

P.47

26年3月卒（新高校3年生）が必要としている情報

P.48

26年3月卒（新高校3年生）が知りたい先輩談

P.49





はじめに

冒頭ご挨拶

2021年に世界を襲ったコロナウイルス。日本の生活様式も一変しましたが、教育現場や進路検討活動においては元の様子に戻りつつあるようです。

2025年3月に卒業した高校生は、高校3年間の間にコロナ影響（緊急事態宣言やまん延防止措置など）が全くなかった世代となりました。（21年3月卒以来4年ぶり）

進学先へのオープンキャンパス参加率は75%以上に上り、また昨年の卒業生と比べて進学先の認知時期やイベント参加時期はやや後ろ倒しの傾向が見られ、コロナ影響なくじっくりと検討していた様子が窺い知れました。

高等教育機関においては、相次ぐ短大の募集停止や女子大の共学化、新たな通信制大学の募集成功など、変化がよく見られる年となりました。高校現場においても、通信制高校の生徒数の増加、新課程入試の初年度、などが話題となりました。

このように変化の激しい市場において、今の高校生は何を考え進路を選ぶのか。

弊社では、高校生向けのアンケート調査を様々なテーマで実施しており、その調査結果を分析してまいりました。本年もこの資料にて、2025年3月に卒業した世代に焦点を当て、調査結果を紹介させていただきます。募集広報業務や進路支援、ひいては学校改革の一助になれば幸いです。

2025年5月 マイナビ進学総合研究所 研究員 青木 湧作



マイナビ進学総合研究所
研究員 青木 湧作

本資料の目的／今回の資料作成に使用したマイナビ進学実施調査一覧

▼本資料の目的

主に2024年度(4月～3月) にマイナビ進学総合研究所が実施した調査から、高校生の進路選択の実態に迫ること。

▼今回の資料作成に使用したマイナビ進学総合研究所実施調査一覧

調査名称	調査対象	調査時期	回答N数
高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査	マイナビ進学会員（高校3年生）	2020年3月	2,729名
〃	〃	2021年3月	2,630名
〃	〃	2022年3月	3,107名
〃	〃	2023年3月	3,200名
〃	〃	2024年3月	3,195名
〃	〃	2025年3月	3,013名
マイナビ進学会員定期調査	マイナビ進学会員（高校生）	2022年5月	996名
〃	〃	2023年9月	2,162名
〃	〃	2023年12月	2,001名
〃	〃	2023年6月	1,653名
〃	〃	2024年3月	1,387名
〃	〃	2024年6月	1,455 名
〃	〃	2024年9月	1,665 名
〃	〃	2024年12月	1,508 名
〃	〃	2025年3月	1,821名
学校案内・パンフレットや学校公式 WEB サイト等に関する高校生の意識調査	マイナビ進学会員（全国の高校3年生）	2023年2月	1,131名
学校案内に関する高校生の意識調査	マイナビ進学会員	2024年2月	1,825 名
高校生の進路に関する保護者調査	外部パネル（全国の高校1～3年生の保護者）	2023年5月	1,200名
〃	〃	2024年5月	1,200名
マイナビ進学 大学認知度・イメージ調査2024	マイナビ進学会員（全国の高校3年生）	2024年7月	10,844名
2024年大学イメージ形成調査	マイナビ進学会員の高校3年生（大学進学希望者）	2024年8月	732名
オープンキャンパスに関する実態調査	マイナビ進学会員（高校3年生）	2024年9月	803名
総合型選抜・推薦型選抜に関する高校生の意識調査	マイナビ進学会員（高校生）	2024年12月	400名



本資料における短縮表記について／年度表記とコロナウイルス影響について

▼本資料における短縮表記について

誌面の都合により、下記のように短縮表記をする箇所があります。悪しからずご了承ください。

- ・「短期大学」・・・『短大』
- ・「専門学校」・・・『専門』
- ・「高校●年生」・・・『高●』 『高●生』 『●年』 など
- ・「2026年3月卒業」・・・『26年3月卒（新高校3年生）』 『26年3月卒』

▼年度表記とコロナウイルス影響について

経年比較に過去のデータを用いるにあたり、

下記の通りまとめておりますのでご参考ください。

西暦年度	和暦年度	期間	入試年度	2023年卒	2024年卒	2025年卒	2026年卒	緊急事態宣言	まん延防止等重点措置
2021年度	令和3年度	2021/4/1- 2022/3/31	「2022年度入試」	高2	高1	-	-	③2021/4/25～6/20 ④2021/7/12～9/30	①2021/4/5～9/30 ②2022/1/9～3/21
2022年度	令和4年度	2022/4/1- 2023/3/31	「2023年度入試」	高3	高2	高1	-	-	-
2023年度	令和5年度	2023/4/1- 2024/3/31	「2024年度入試」	-	高3	高2	高1	-	-
2024年度	令和6年度	2024/4/1- 2025/3/31	「2025年度入試」	-	-	高3	高2	-	-

↑ 本資料の主な分析対象



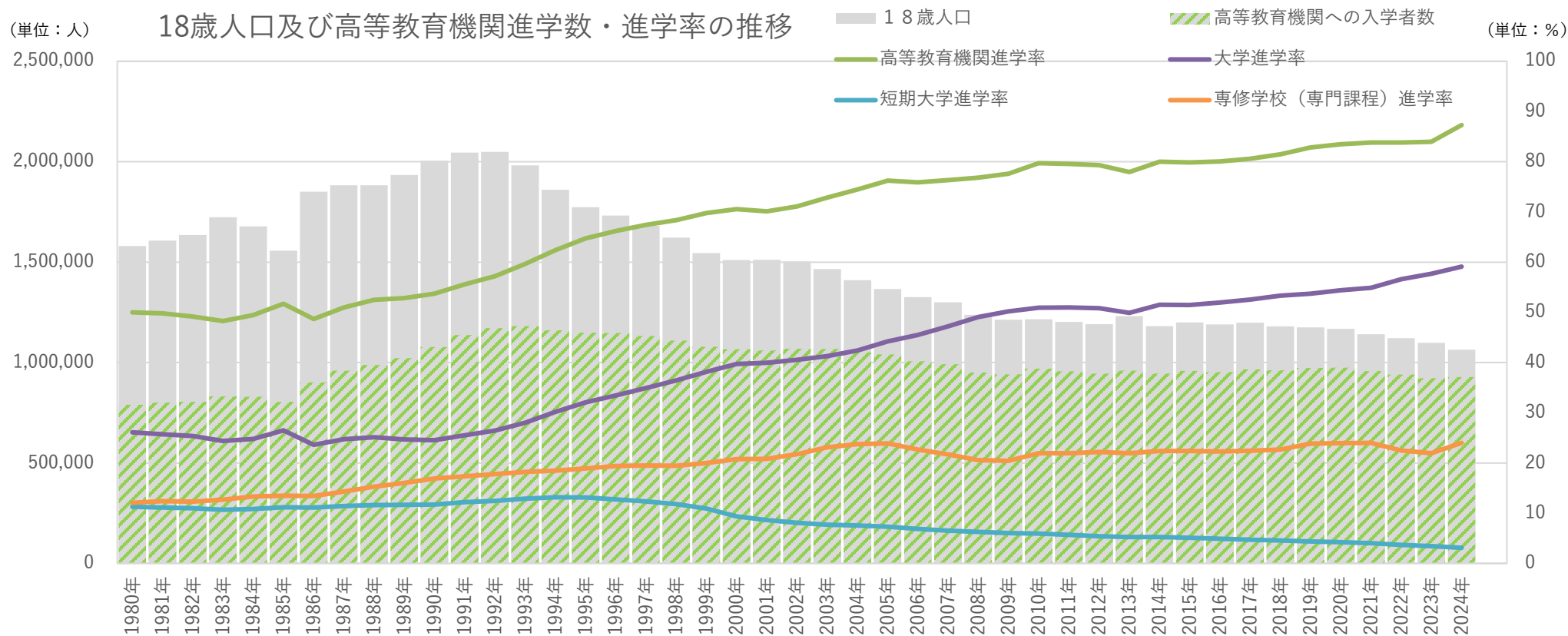


9	107654	108451	109276	110112	11090
2	107655	108457	109279	110117	11091
5	107660	108460	109292	110122	11091
6	107665	108473	109293	110124	11093
1	107667	108474	109298	110127	11093
6	107670	108479	109303	110132	11093
8	107675	108484	109305	110734	11094
1	108277	108486	109308	1107	10943
6	108297	1084		110	10946
8	108300	10		1107	1095
8	108310			110	1553
1	108319			110	1573
1	108331			11	1576
0	108337				1586
2	108342				11595
8	108344				111607
3	1083				111613
5	10				111618
8				21	111620
7				323	111623
1				33	111632
5				36	111636
7					111640
7					111642
0					111652
7					11655
0					672
4	10				75
8	10841				11679
2	10841				111683

I. 高校生の進学を取り巻く環境

18歳人口は引き続き減少、大学進学率は上昇トレンドをキープ

18歳人口は引き続き減少傾向。文部科学省の推測では来年も減少が見込まれており、減少率はさらに上がることが予想される。大学進学率は59.1%と昨年から1.4%増加しており過去最高値を更新。これで9年連続で最高値を更新したこととなる。短期大学進学率は下降が続き、全体の3.1%。専門学校進学率は全体の24.0%と2021年の最高値の水準に復調した。



※全体の進学率には「高専4年在学者」を含むが、割合が少ないためグラフには表示しない。

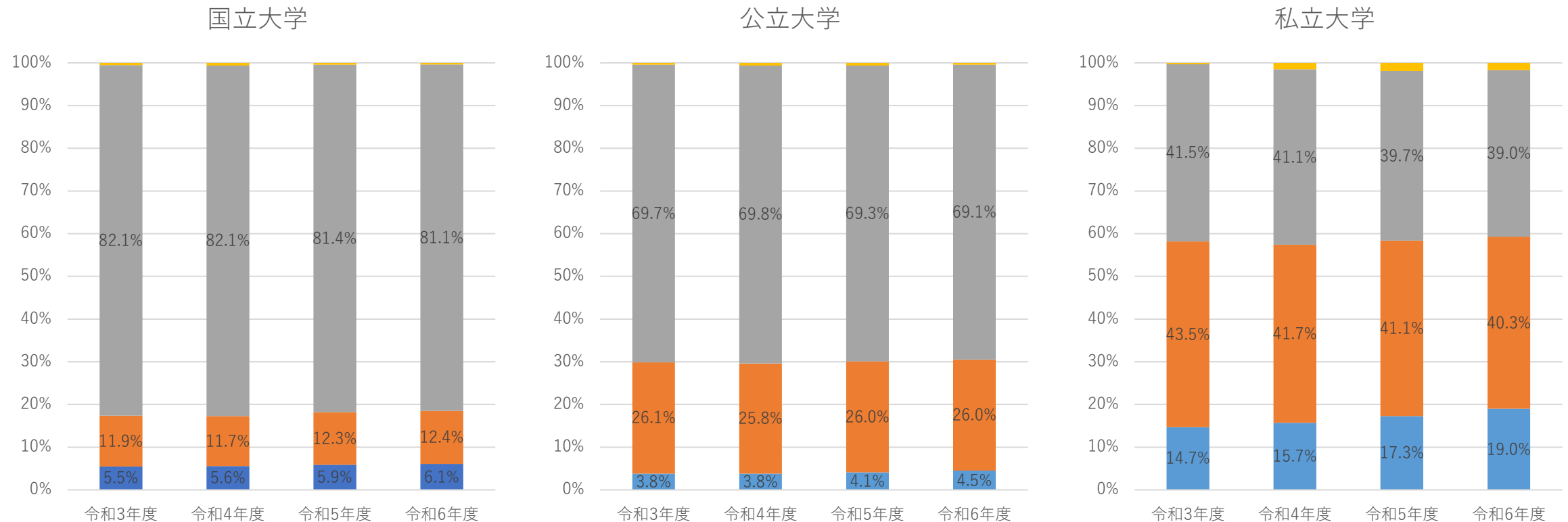
【参照元データ】

・学校基本調査（年次統計、高等教育機関への入学状況(過年度高卒者等を含む)の推移 より)

国公立全ての大学区分において総合型選抜の利用割合が増加

選抜方式別の入学者数を、直近4か年の推移データで示した。昨年同様、総合型選抜は国公立、私立ともに増加傾向。国公立の増加は微増であるが、私立は+1.7ptと昨年以上の上がり幅で増加しており、次年度以降もさらなる拡大が予想される。一般選抜においても昨年同様にすべての大学区分において減少。年内入試傾向がより顕著になっている様子が伺える。

選抜方式別入学者数の推移 ■ 総合型選抜 ■ 学校推薦型選抜 ■ 一般選抜 ■ その他入試



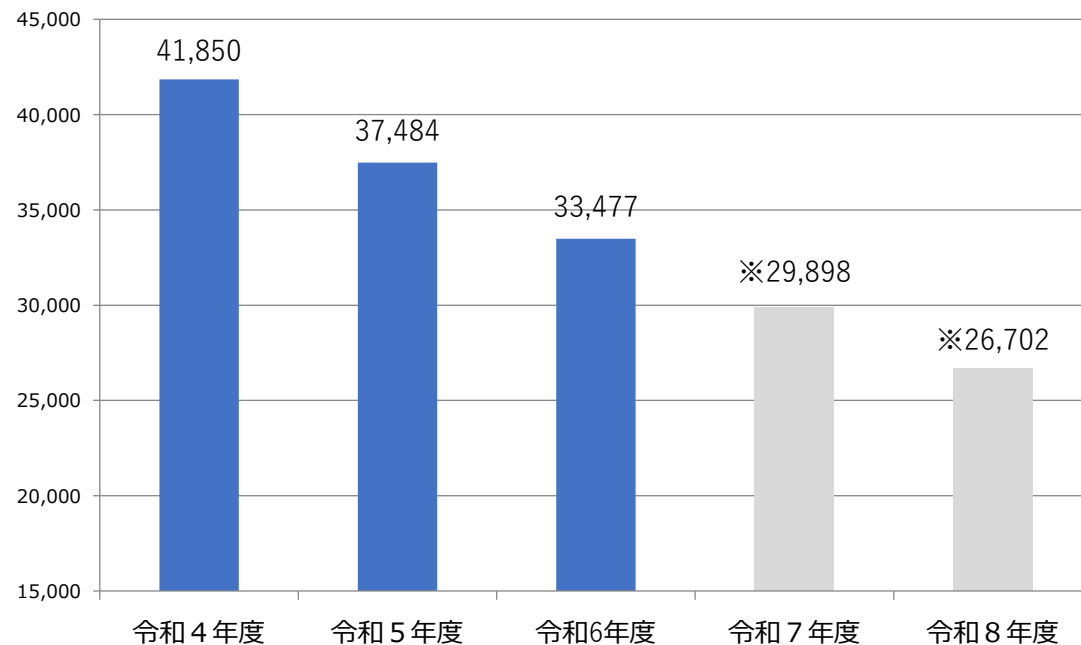
【参照元データ】
・文部科学省「国公立大学・短期大学入学者選抜実施状況の概要」

募集難による短期大学の募集停止が加速

令和6年度において短期大学への進学者は全国で33,477名（前年比89.3%）となり、今後も進学者は減少する見込みとなっている。また、この状況に際して近年中に募集停止を決定する学校が多くみられた。募集停止の校数について、すでに令和7年度に23校が、令和8年度に22校の短期大学が募集停止する事を発表済み（2025年4月末時点）

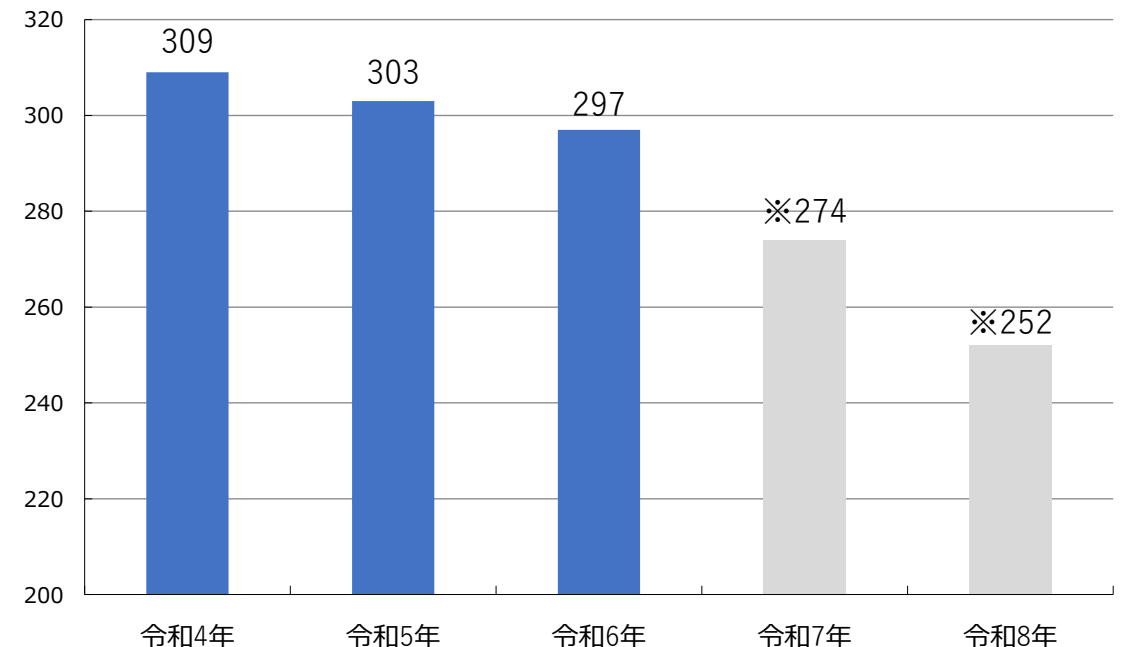
短期大学進学者数

（※令和7・8年は令和6年度と同じ割合で減少した場合の予測）



短期大学の学校数変遷

（※令和7・8年は各短大の発表情報をもとにした概算値）

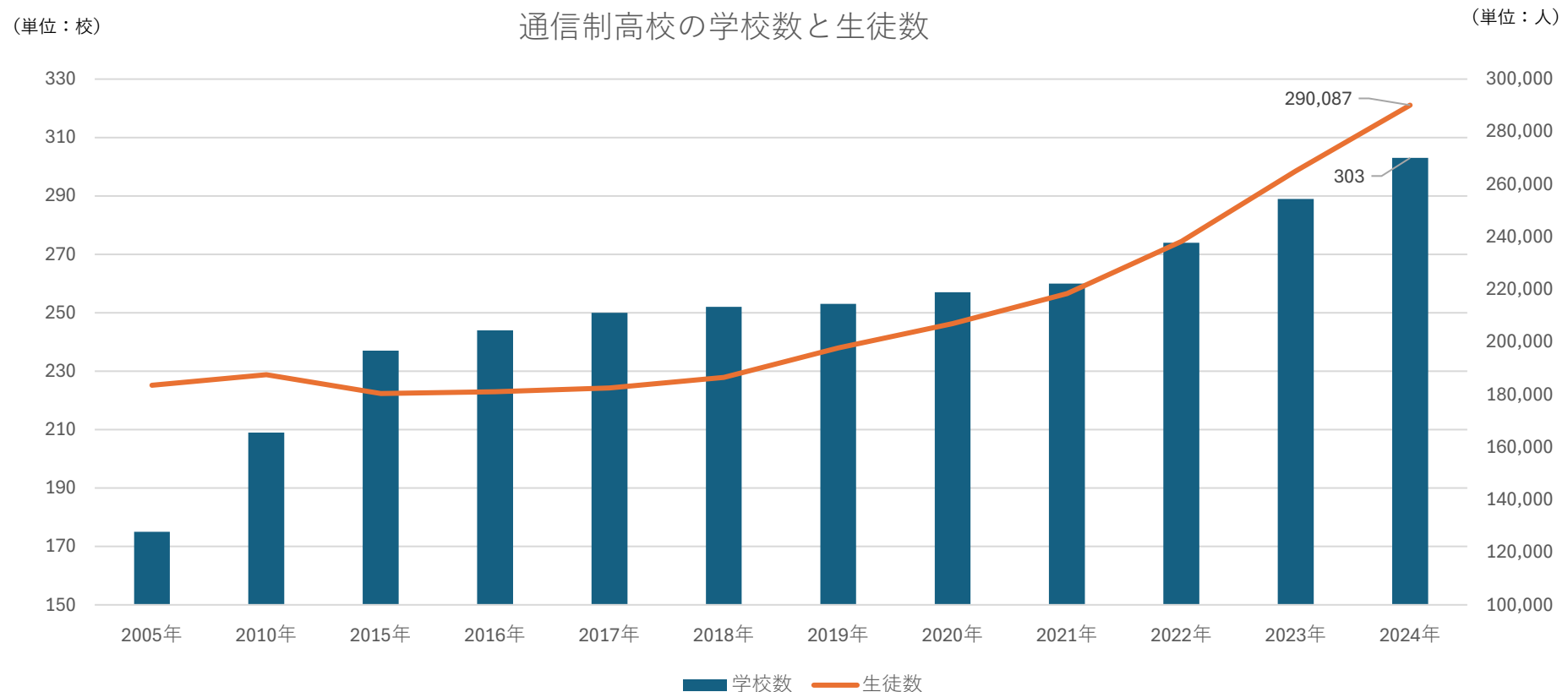


【参照元データ】

・文部科学省 学校基本調査

通信制高校はさらに拡大、入学者も増加

通信制高校の学校数は2022年以降急増し、21年→22年で14校、22年→23年で15校、23年→24年で14校、それぞれ増加した。生徒数は2022年以降、増加幅が大きくなっており2024年は前年から25,113名増加した。コロナ禍以降のオンライン授業普及に伴い、高校進学が多様性が広く認知されたことが要因と考えられており、2025年以降も通信制高校への進学者数が増加することが予想される。



【参照元データ】
・学校基本調査（年次統計、通信制、学校数・学科数（本科）、都道府県別生徒数）



II.25年3月卒生の活動タイミング

進路検討時期は2年生10月～3年生夏頃に集中

本章の内容を下記表のとおり1枚にまとめ、学校種別（大学／短大／専門／全体）により色分けしている。

昨年のもまとめ（次ページ参照）と比較すると、全体の認知・イベント参加・出願決定の時期が2年生10月～3年生夏頃に集中した。

進路選択に向けて、じっくりと検討をしている様子が伺える。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生												
2年生							【大学】認知第2ピーク 【短大】認知第2ピーク			【専門】認知第2ピーク 【全体】認知約70%認知済み		
3年生	【大学】認知最多時期 【短大】認知最多時期 【専門】認知最多時期 【全体】資料請求最多時期			【全体】認知約90%認知済み 【全体】イベント参加最多時期 【全体】出願決定約50%決定済み			【全体】出願決定最多時期 【全体】出願決定約90%決定済み					

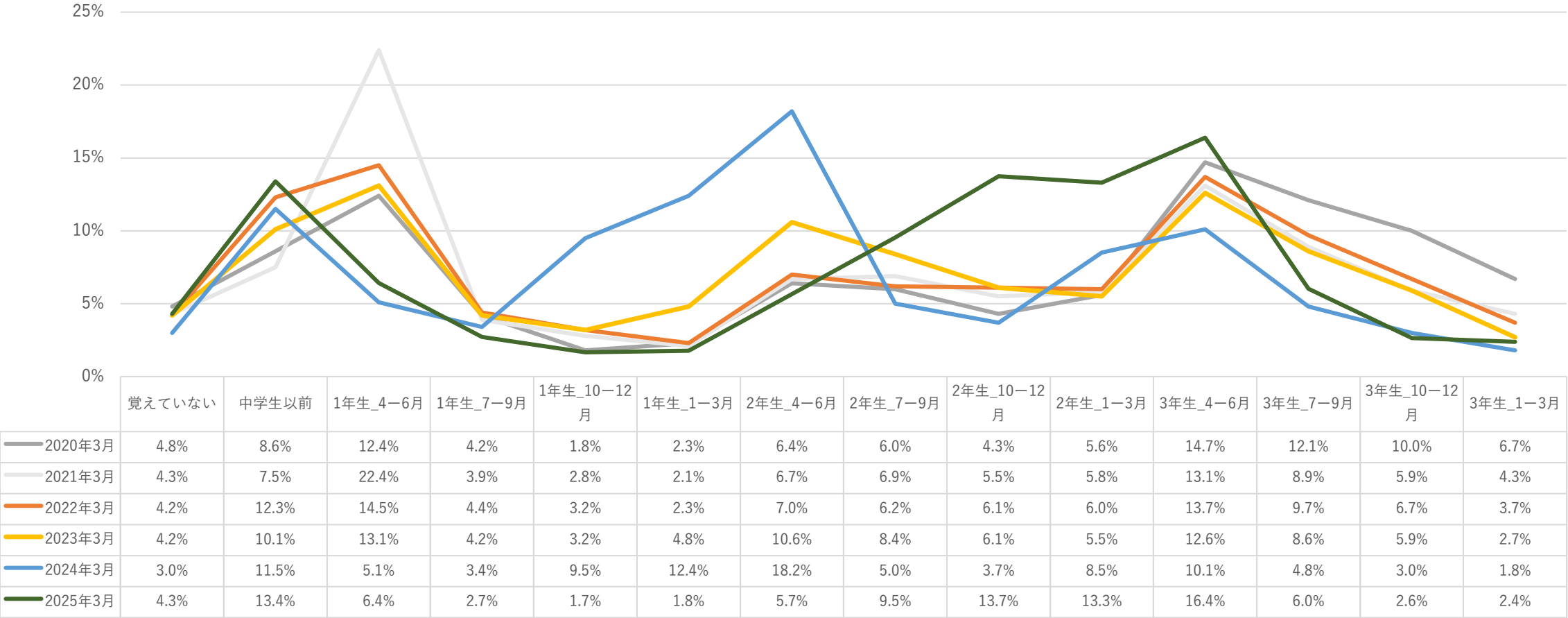
【参考】2024年度進学トレンド総括 より

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生										【大学】 認知第2ピーク		
										【短大】 認知第2ピーク		
2年生	【大学】 認知最多時期						【全体】 認知 約70% 認知済み			【専門】 認知第2ピーク		
	【短大】 認知第2ピーク											
	【専門】 認知最多時期											
3年生	【全体】 認知 約90% 認知済み	【全体】 出願決定 最多時期										
	【全体】 資料請求 最多時期	【全体】 出願決定 約45% 決定済み										
	【全体】 イベント参加 最多時期						【全体】 出願決定 約88% 決定済み					

2年生10月～3年生6月の認知が活発化

進学する学校を知った時期の調査。2025年3月卒は「2年生10～12月」～「3年生4～6月」の回答割合が高い。
2024年3月卒は「2年生4～6月」が認知の最多時期だったため、昨年に比べて認知のボリューム時期が3年生に寄る結果となった。

進学する学校を知った時期

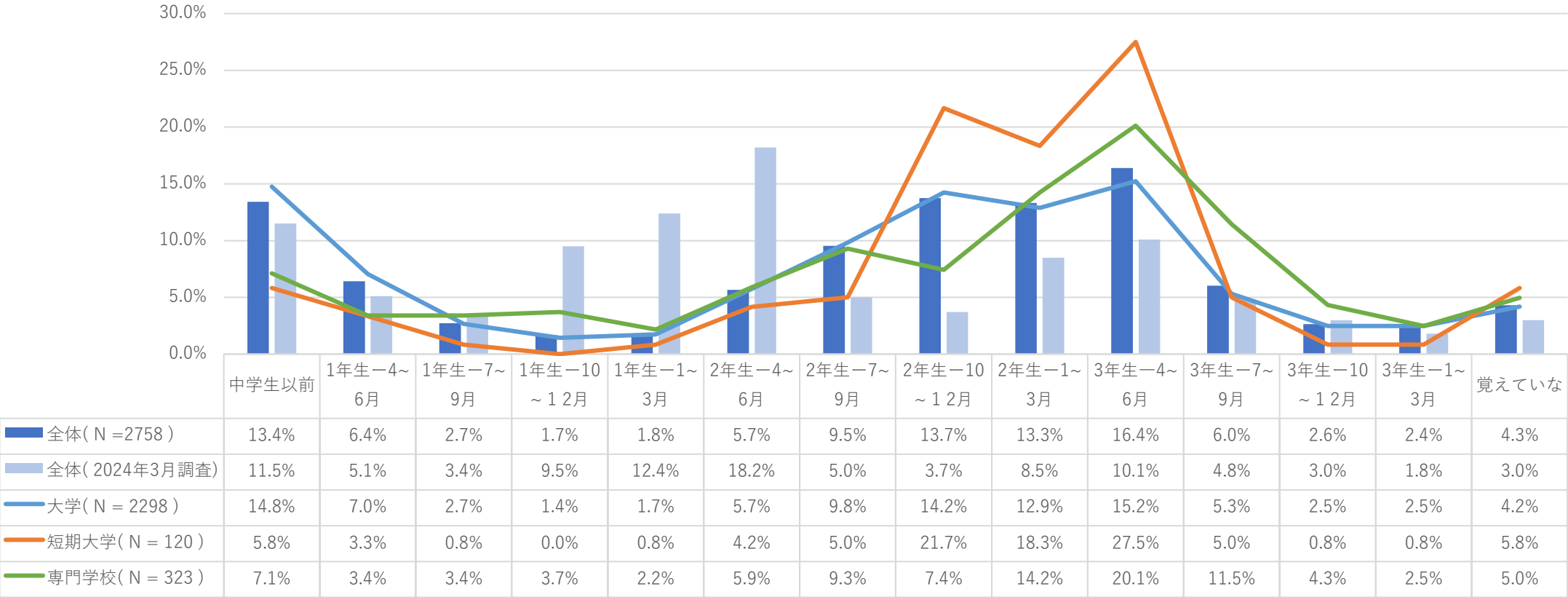


【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査/2020/2021/2022/2023/2024/2025

大学・短大は「2年10月～3年6月」、専門学校は「3年4～6月」がピーク

進学する学校を知った時期を学校種別ごとに集計。回答最多は、いずれも「3年生4～6月」(大学：15.2%、短大：27.5%、専門20.1%)となった。昨年は、「1年生10月～2年生6月」頃に山があったが今年は「2年生10月～3年生6月」頃に山がある様子が見て取れた。コロナ禍が明け、進路行事がコロナ前のスケジュールに戻っていることが要因であると考えられる。

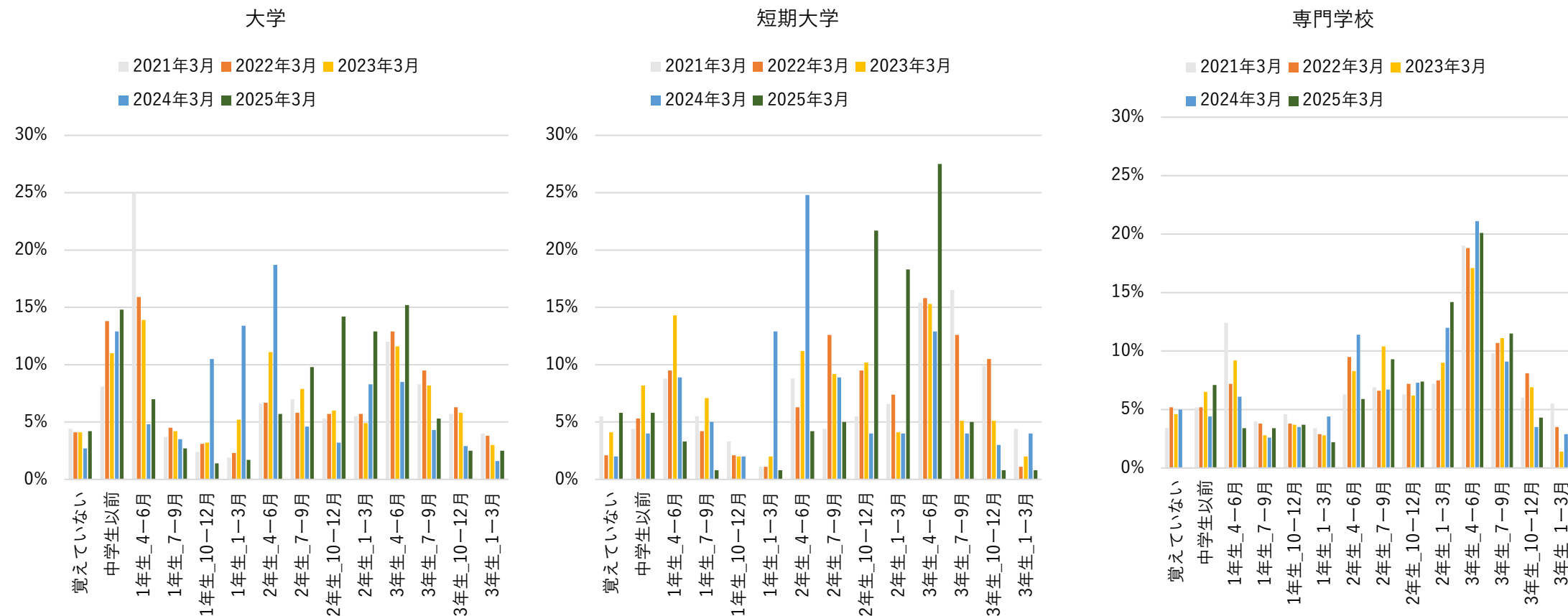
進学する学校を知った時期



【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2025

「3年生4～6月」の回答割合は学校種別・調査年度を問わずピーク

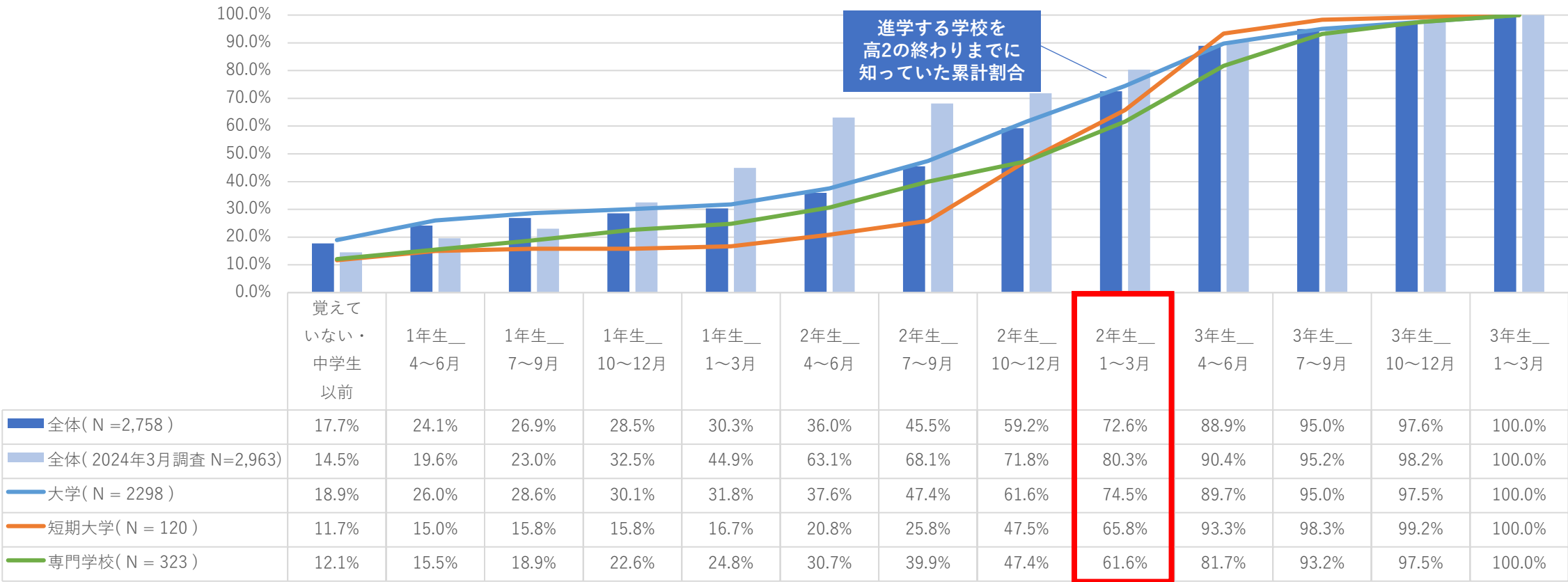
進学する学校を知った時期の年度比較を学校種別ごとに行った。大学では2024年度の「1年生10月～2年生6月」が過年度と比較して回答割合が高かったが、2025年は「2年生10月～3年生6月」の回答割合が高くなっている。短大でも2025年度は、昨年より遅い「2年生10月～」の回答割合が高い。専門学校はいずれの年度でも「3年生4～6月」の回答割合が高いことが見て取れる。



2年生が終わる頃には約70%が進学先校を認知済み

進学する学校を知った時期を時期順に累計で表した。1年生前半は昨年と同水準で推移していたが、「1年生1～3月」以降は差がつき、昨年よりも認知時期が3年生に寄った様子がみられた。短大進学者は2年生の夏ごろまでは進学先の認知割合が伸び悩んでいたが、「2年生10～12月」を皮切りに、以降は大学・専門学校層の水準まで伸びた。また高2終わりの全体の累計値を見ると、72.6%との結果となった。

進学する学校を知った時期（累計）

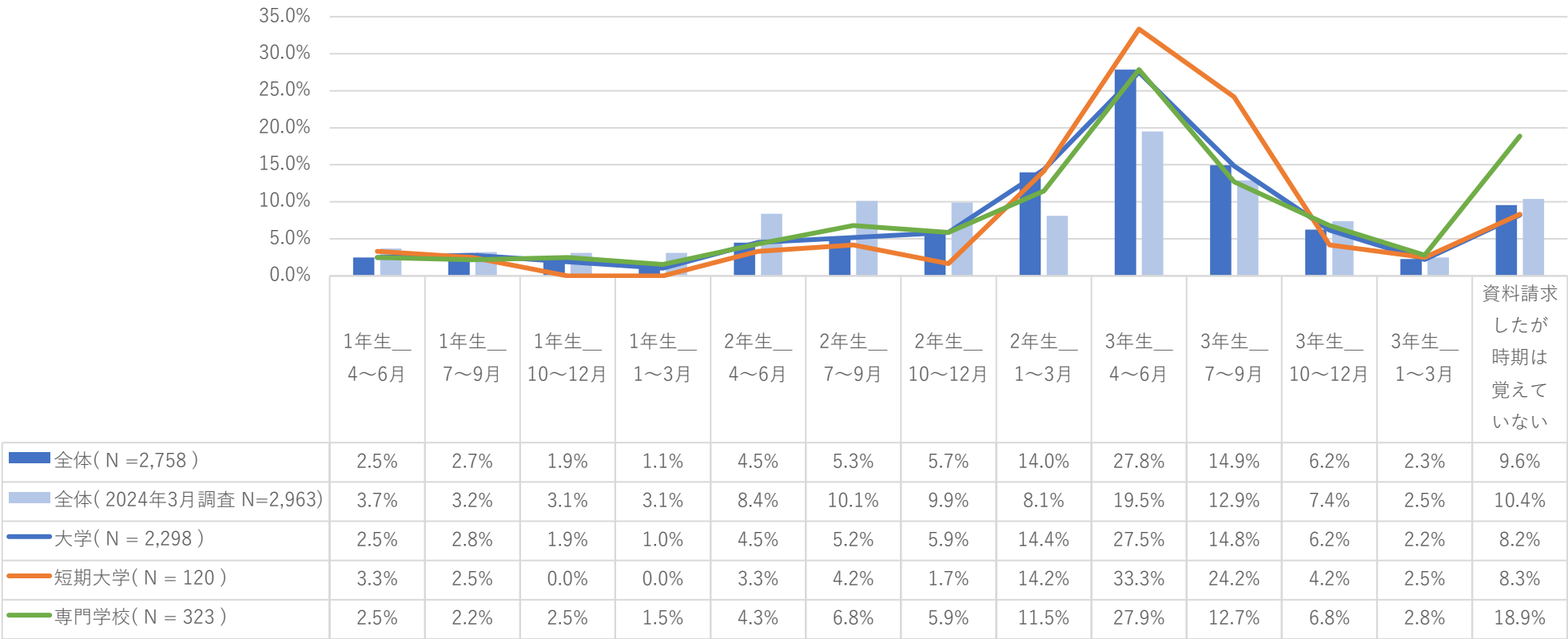


【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2025

資料請求時期は「2年生1月～3年生の夏頃」までがピーク

進学する学校へ資料請求した時期については、前ページに記載の進学先認知時期と同様に3年生に集中する様子がみられた。資料請求のピークは、「3年生4～6月」（27.8%）であり昨年同様ではあるものの、この期間により一層集中して資料請求を行っていた様子が見て取れる。なお、進学先の学校区分によっても大きな差は見られず大学・短大・専門学校ともに「3年生4～6月」がピークとなった。

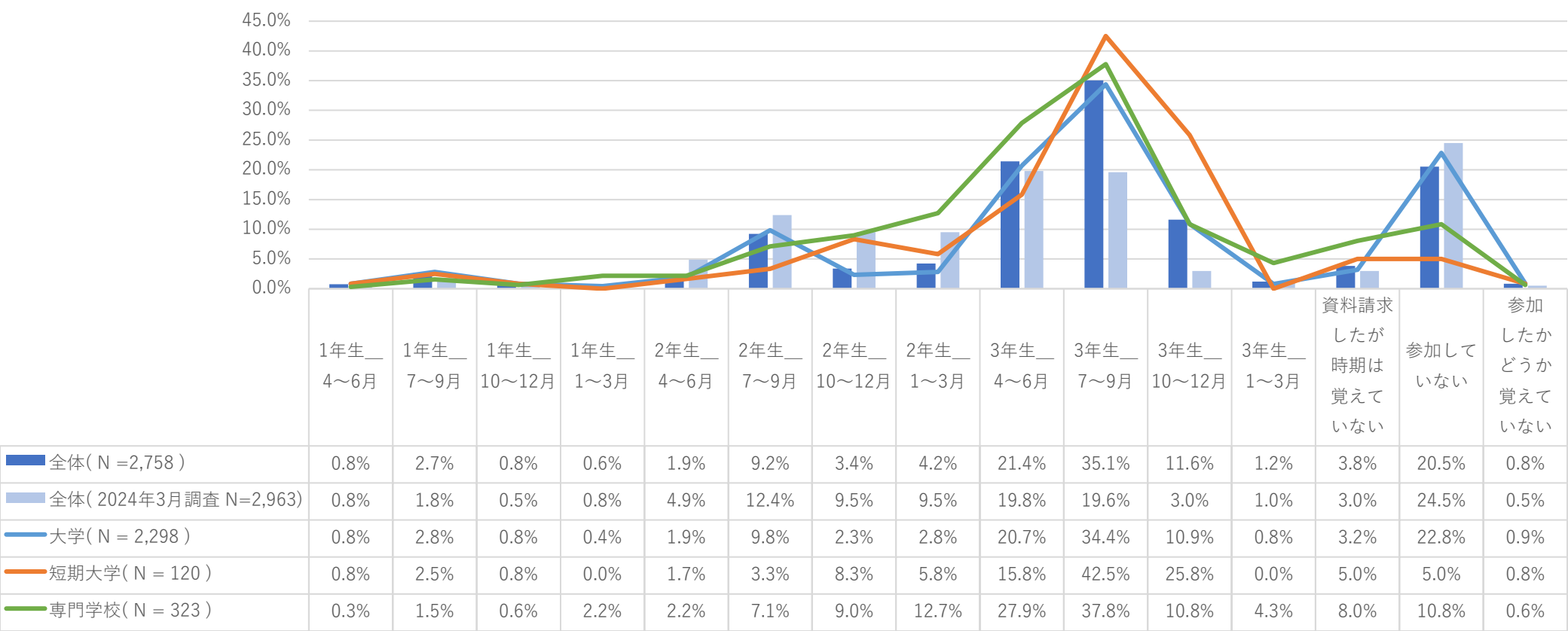
進学する学校へ資料請求をした時期



イベント参加時期は「3年生4月～9月」に集中

進学する学校のオープンキャンパス等のイベントへの参加時期について、「3年生7～9月」（35.1%）が最多の回答割合となった。昨年調査を実施した際の高3生は、「2年生夏頃から3年生9月頃」のイベント参加の様子がみられたが、今年は「3年生4月～9月」頃にイベント参加が集中していた様子がみられた。進学先の認知時期の変化が、イベント参加においても影響したか。

進学する学校のオープンキャンパス・体験入学へ参加した時期

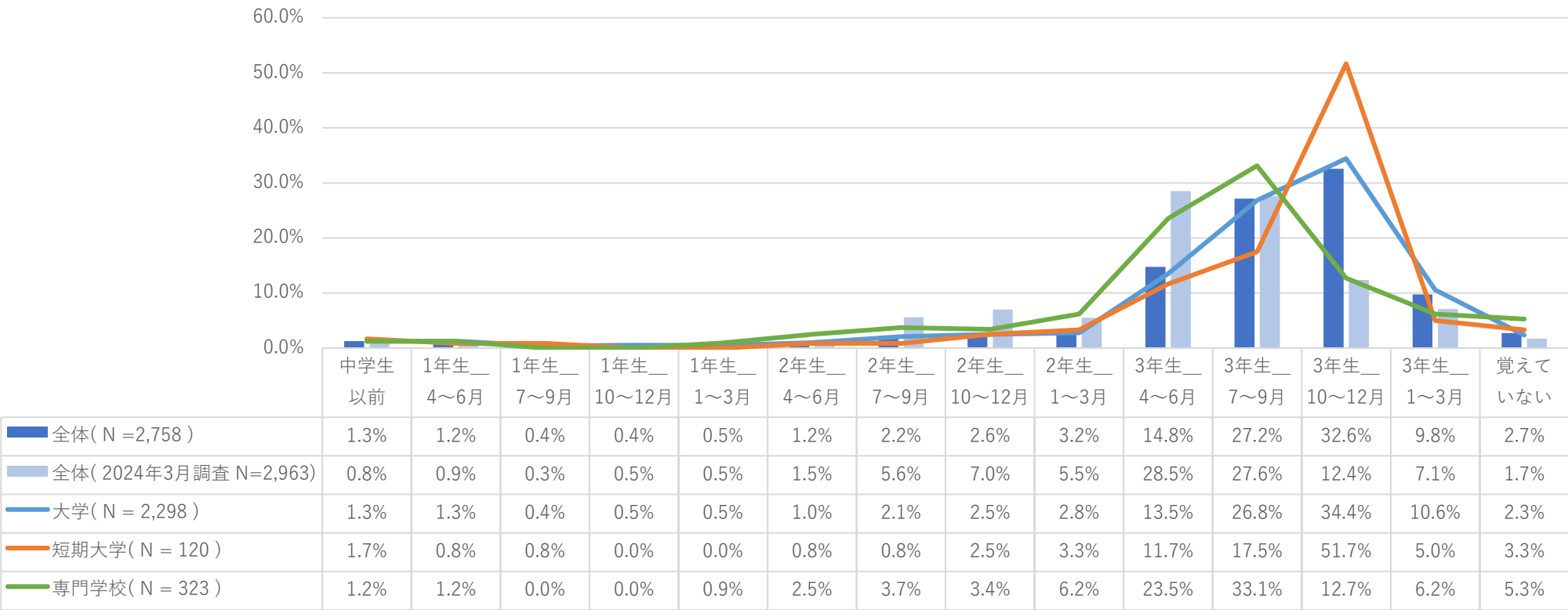


【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2025

出願決定時期は「3年生夏以降」に集中

進学する学校へ出願を決定した時期について学校種別ごとに集計。大学は「3年生7月～12月」に回答が集中した。専門学校はAOエントリーの影響か、「3年生4～6月」頃から出願先を決定し始めている様子がみられた。志望分野の検討やオープンキャンパスへの参加での出願校の精査、また多様な年内入試の入試方式を検討した影響か、出願先決定が3年生に集中する様子がみられたものと思われる。

進学する学校へ出願を決めた時期（月別）

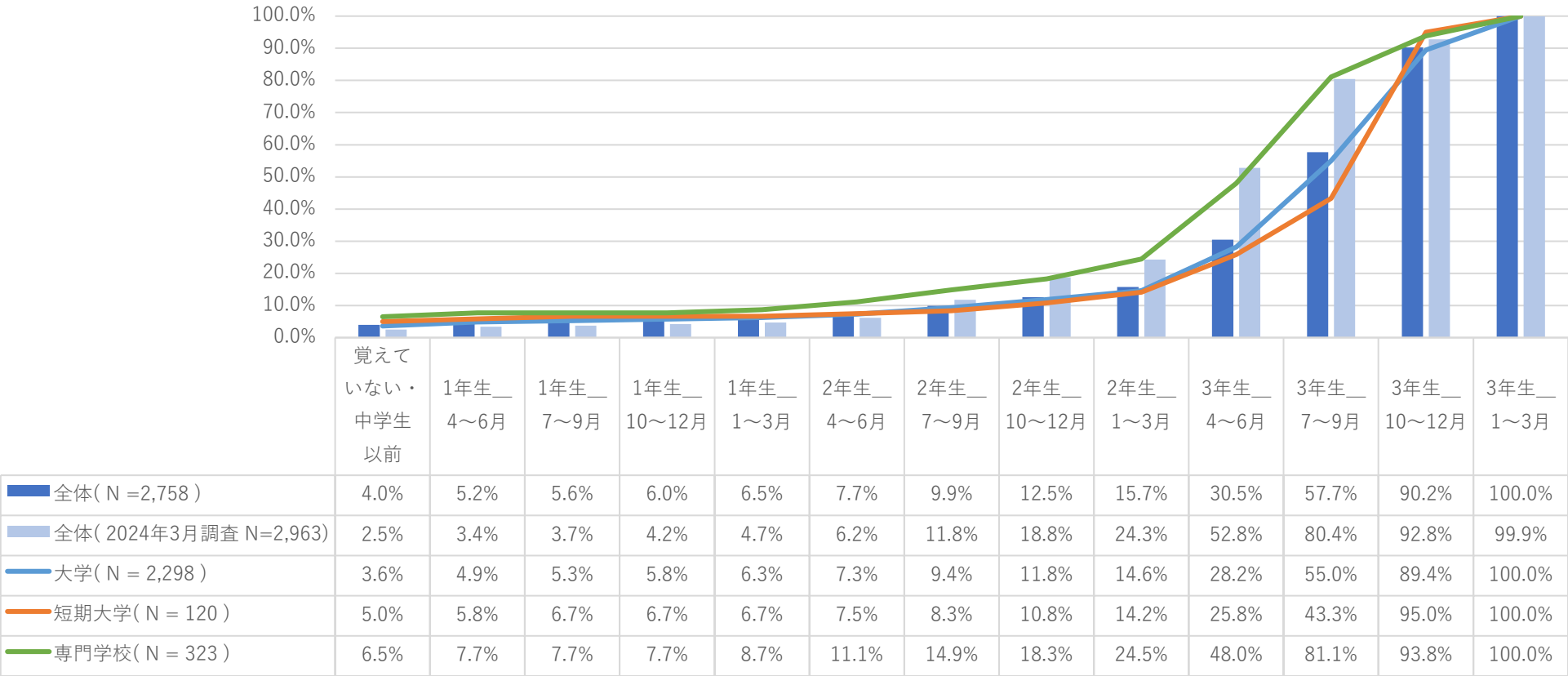


【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2025

出願を決定した時期は高校3年生の夏以降に集中

出願を決定した時期を時期順に累計で表した。学校種別ごとで見ると大学層は「3年生7月～9月」で加速、専門学校層は「3年生4月～6月」で加速している様子がみられる。コロナ禍が明けて進路行事が増えたことにより、コロナ禍前に近いスケジュールにて、3年生の夏頃までじっくりと進学先を検討するケースが増えたためではないかと考えられる。

進学する学校へ出願を決めた時期（累計）

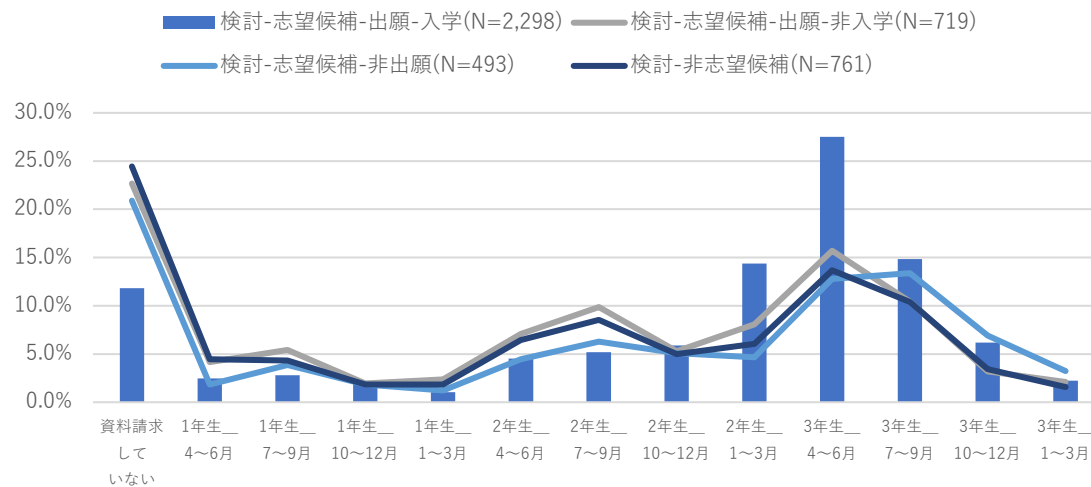


【参照元データ】
・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2025

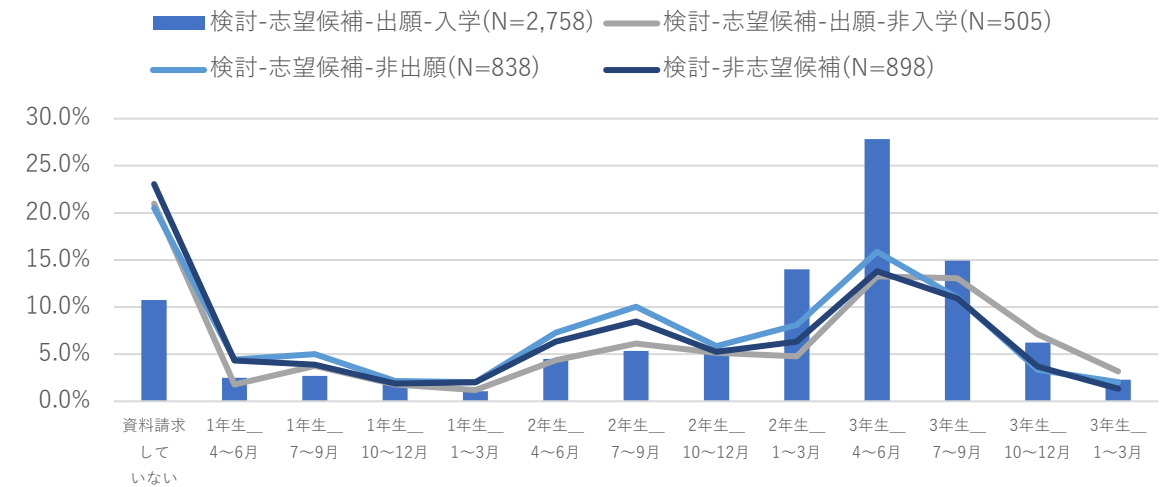
大学において、「高校3年4月～6月」での資料請求有無は進学に影響あり

資料請求時期を、「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。大学では「高3の4月～6月」に資料請求をした高校生が出願へつながりやすい様子がみられた。専門学校では、出願と非出願者において大きな差がみられないものの、「高3の4月～6月」に資料請求をした高校生が出願へつながっている様子がみられた。

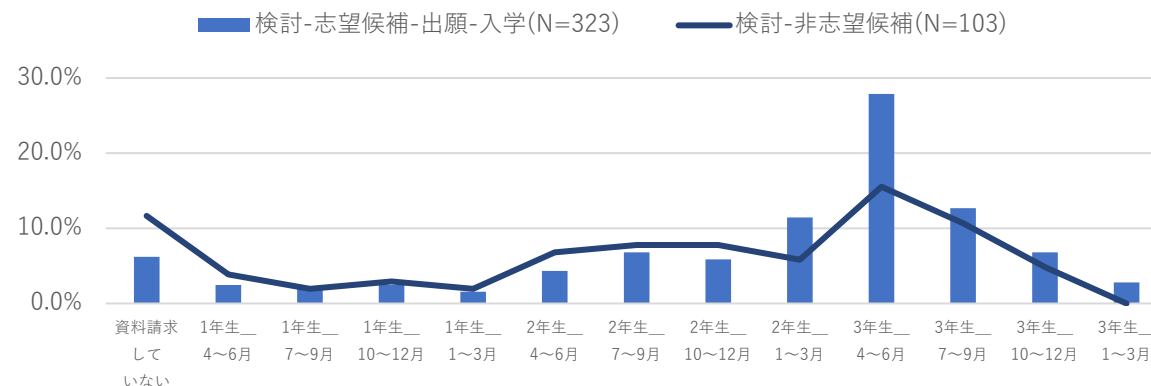
学校へ資料請求をした時期（大学）



学校へ資料請求をした時期（全体）



学校へ資料請求をした時期（専門学校）

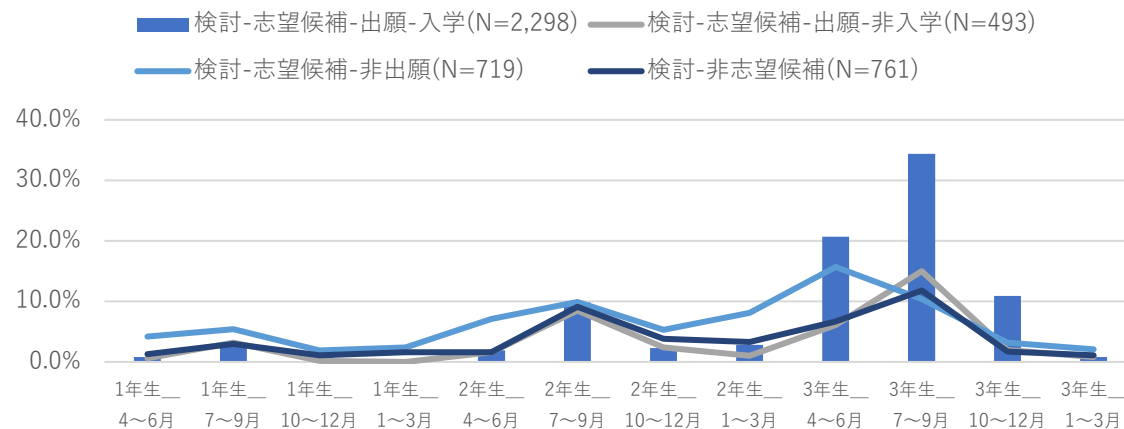


※N数が少ない分類に関しては割愛している。

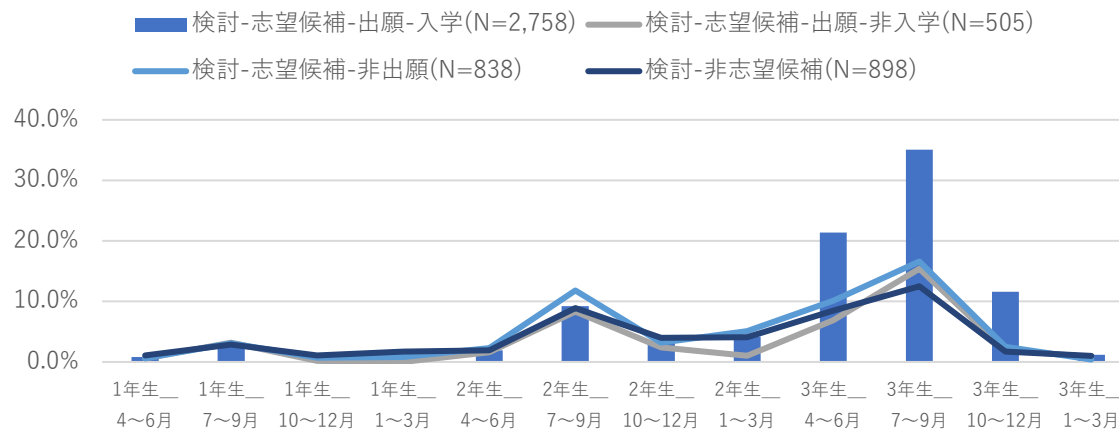
3年生春夏のイベント参加は進学者獲得のキーポイント

オープンキャンパス等のイベントへの参加時期を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。大学においては「3年生4～6月」において、進学先校と非進学先校で結果に乖離が見られた。一方専門学校においては、「3年生7～9月」において乖離が見られた。

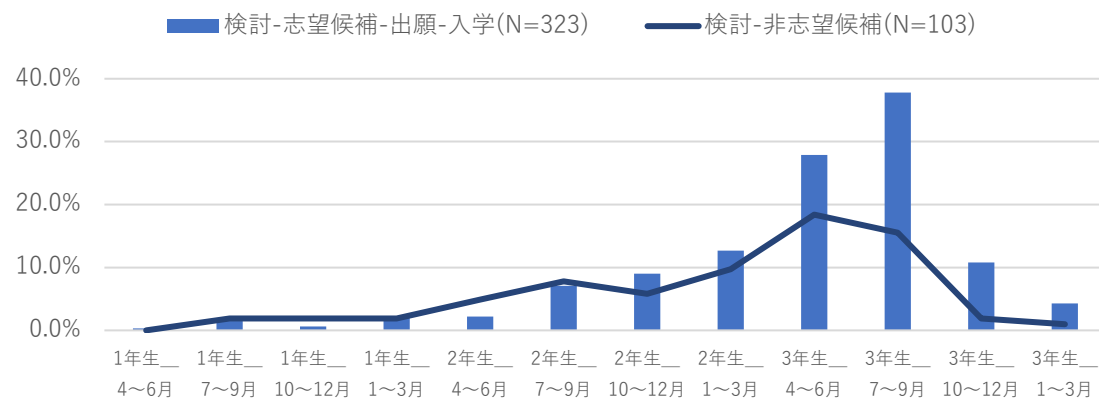
オープンキャンパス等のイベントへの参加時期（大学）



オープンキャンパス等のイベントへの参加時期（全体）



オープンキャンパス等のイベントへの参加時期（専門学校）



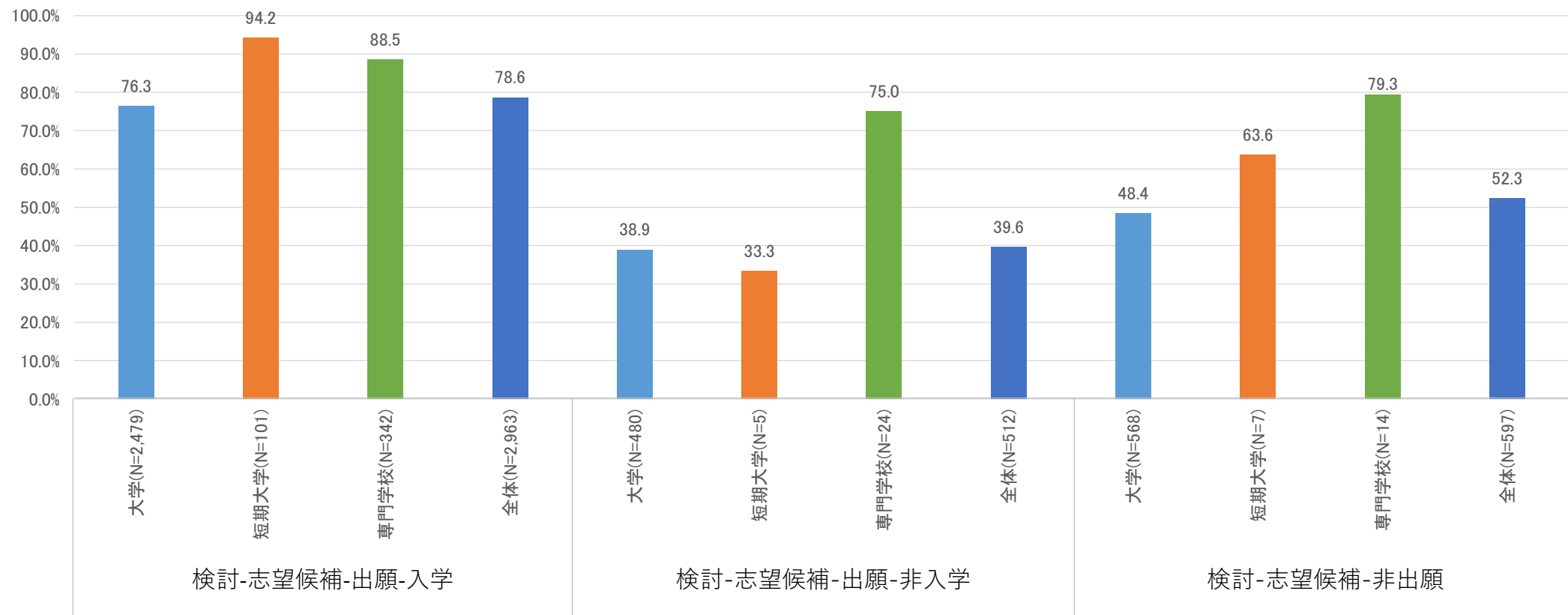
※N数が少ない分類に関しては割愛している。

進学先校のイベント参加率は全体で75%以上

オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合を「進学した学校」とそれ以外で分けて表した。

「入学先」のイベント参加割合が短大では94.2%、専門学校では88.5%となった。また出願・非出願にかかわらず専門学校志望者はイベントへの参加割合が高い様子がみられる。一方、大学志望者の第2希望以下の学校へはイベント参加を敬遠する傾向がある様子がみられる。

オープンキャンパス等のイベントへ参加した割合



【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2025

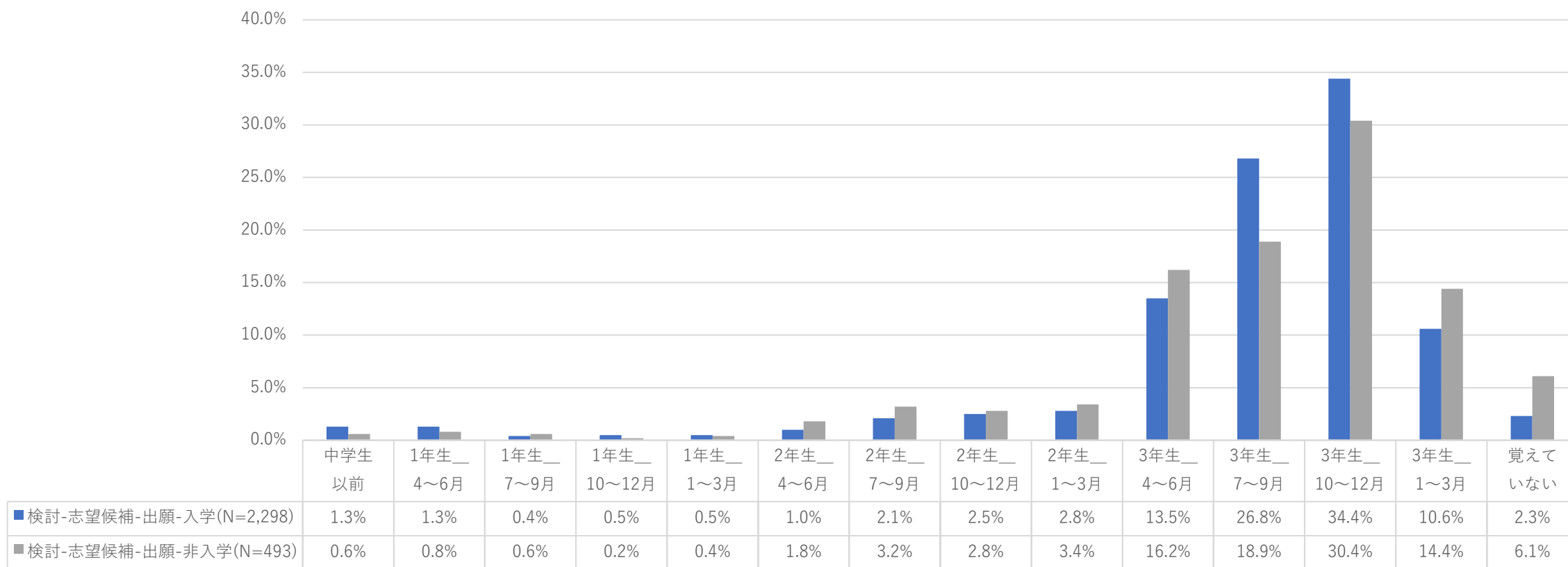
出願を決定する時期は3年生7月～12月に集中

出願を決定した時期を「入学」と「非入学」で分けて集計した。※N数の関係で大学のみ掲載。

出願決定時期は入学・非入学にかかわらず、3年生4月から徐々に上昇して夏以降に集中。

市場の動きとして低年次から進路指導は行われているものの、出願の最終決定タイミングは3年生7月～12月に集中していることが見て取れる。

出願を決定した時期（大学）





III. 25年3月卒生の学校選びに関する意識

— 高校生に、進学するイメージをさせる —

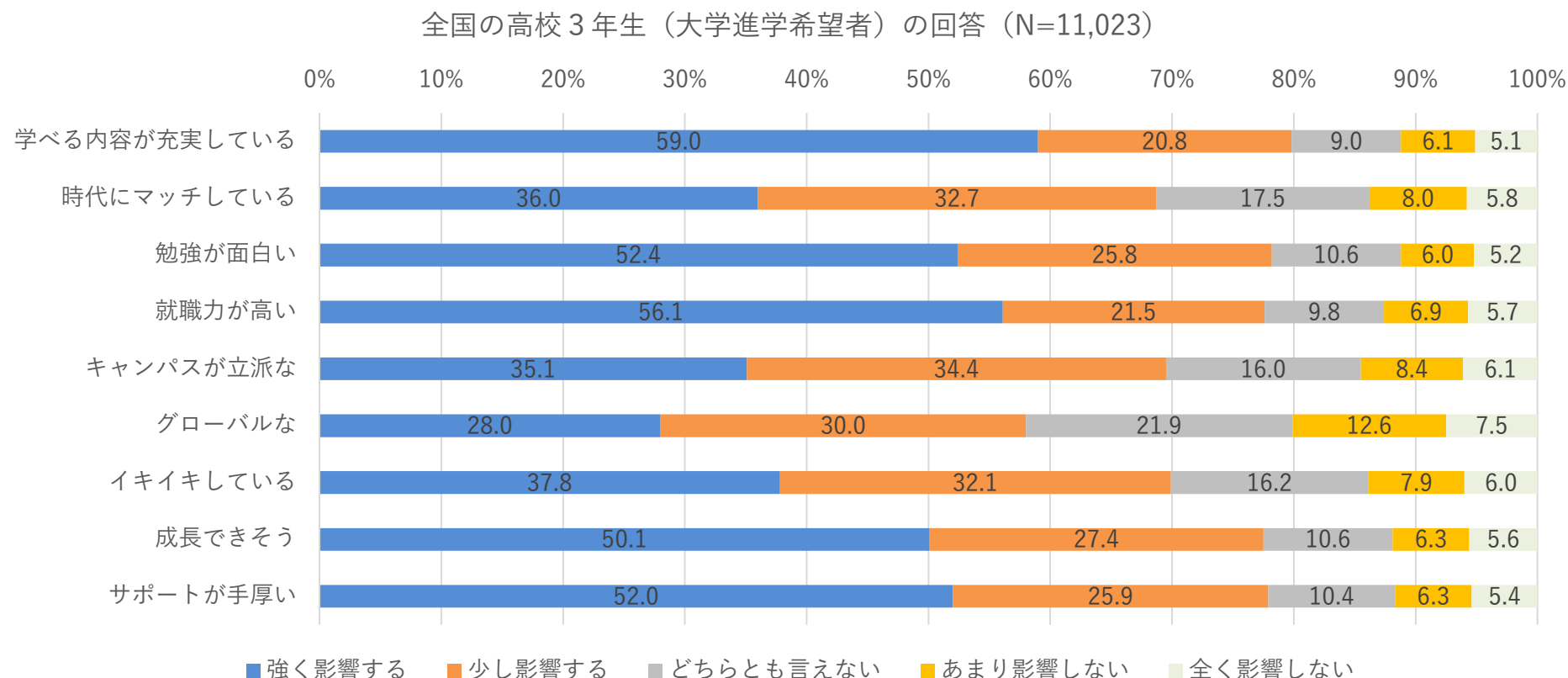
高校生は進路選択において、「学べる内容」を重要視している。
この重要視されるポイントは変わらない中、ありふれた情報の中から
高校生は自分に合った学びたい内容を見つける。

昨今の情報社会において情報を取捨選択をすることに長けている高校生に対して
今まで以上に“進学するイメージ”を持たせる事ができるかが出願への鍵となりそうだ。

またコロナ禍が明け、オープンキャンパスの開催も増加する中、
保護者とともにイベントへ参加する傾向も増加している。
進路の最終決定において影響度の高い保護者に対し、
どのように共感をしてもらい、子どもに助言をしてもらうかも重要である。

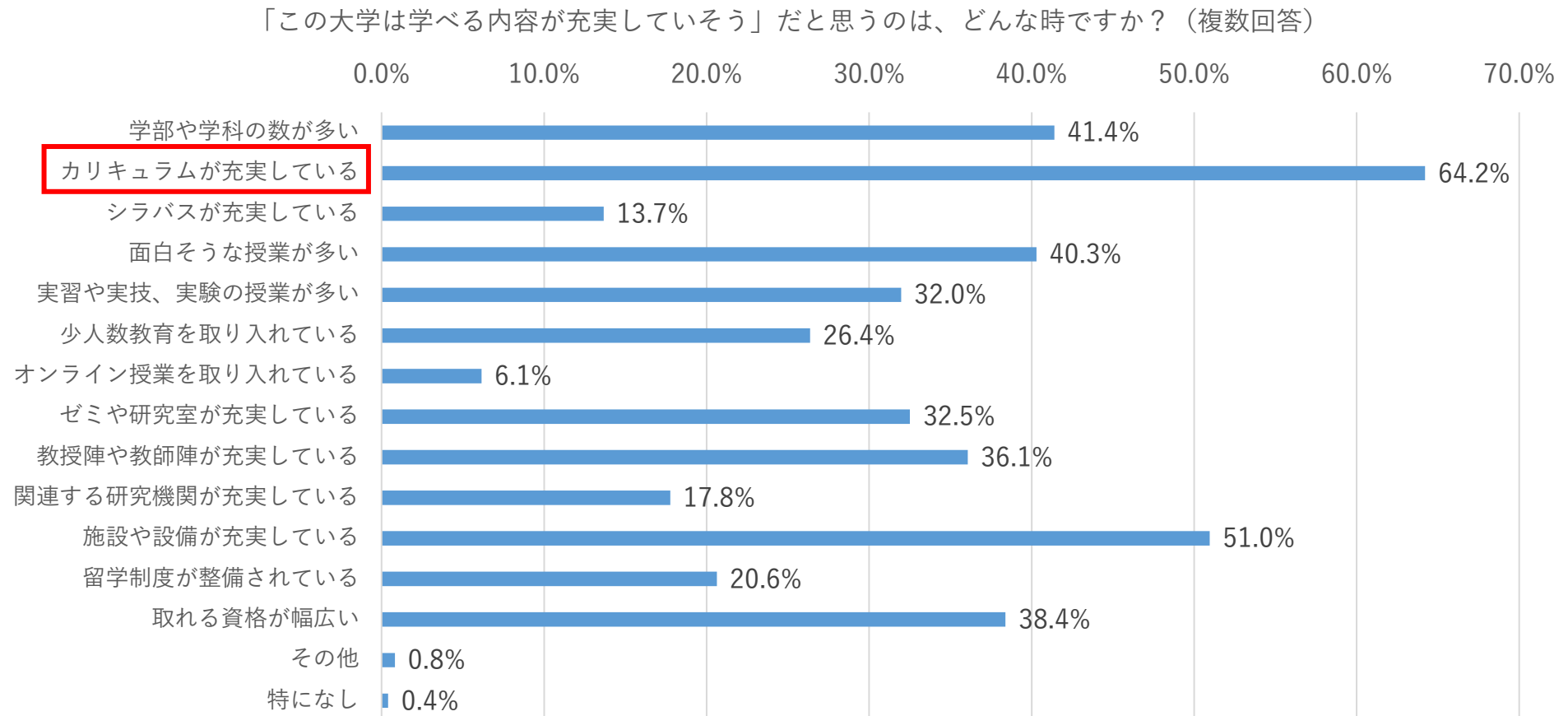
志望校検討に強く影響するのは「学べる内容が充実している」イメージ

志望校検討に影響するイメージ項目について、全国の高校3年生に調査を実施したところ、「学べる内容が充実している」が最も多い回答となった。次いで「就職力が高い」「勉強が面白い」が続いた。



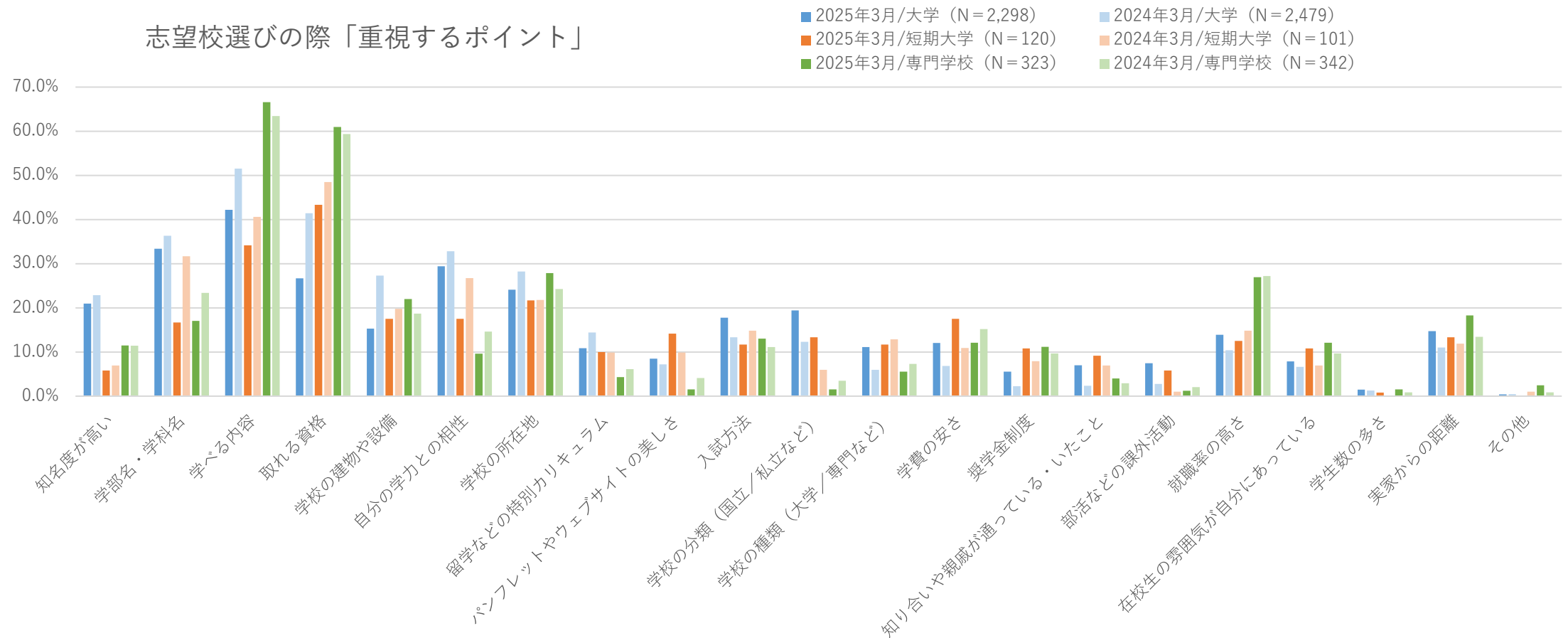
学べる内容が充実している学校は「カリキュラムが充実している」イメージ

志望校検討に強く影響すると回答された「学べる内容が充実している」というイメージについて、さらに深掘りして質問をしたところ、「カリキュラムが充実している」と回答した割合が64.2%と最多の結果となった。また、「施設や設備が充実している」が51.0%、「学部や学科の数が多い」が41.4%続く結果となった。



上位の回答は前年同様、また大学志望は「入試方法」を気にする傾向

志望校選びの際「重視するポイント」について聞くと、大学・専門学校では「学べる内容」、短大では「取れる資格」と、いずれも昨年同様の結果となった。上位の回答は前年同様であるものの、大学志望者においては「入試方法」を気にする傾向がみられ、2025年1月に実施された共通テストが新課程入試の初年度であったことなどが回答の背景にあると考えられる。



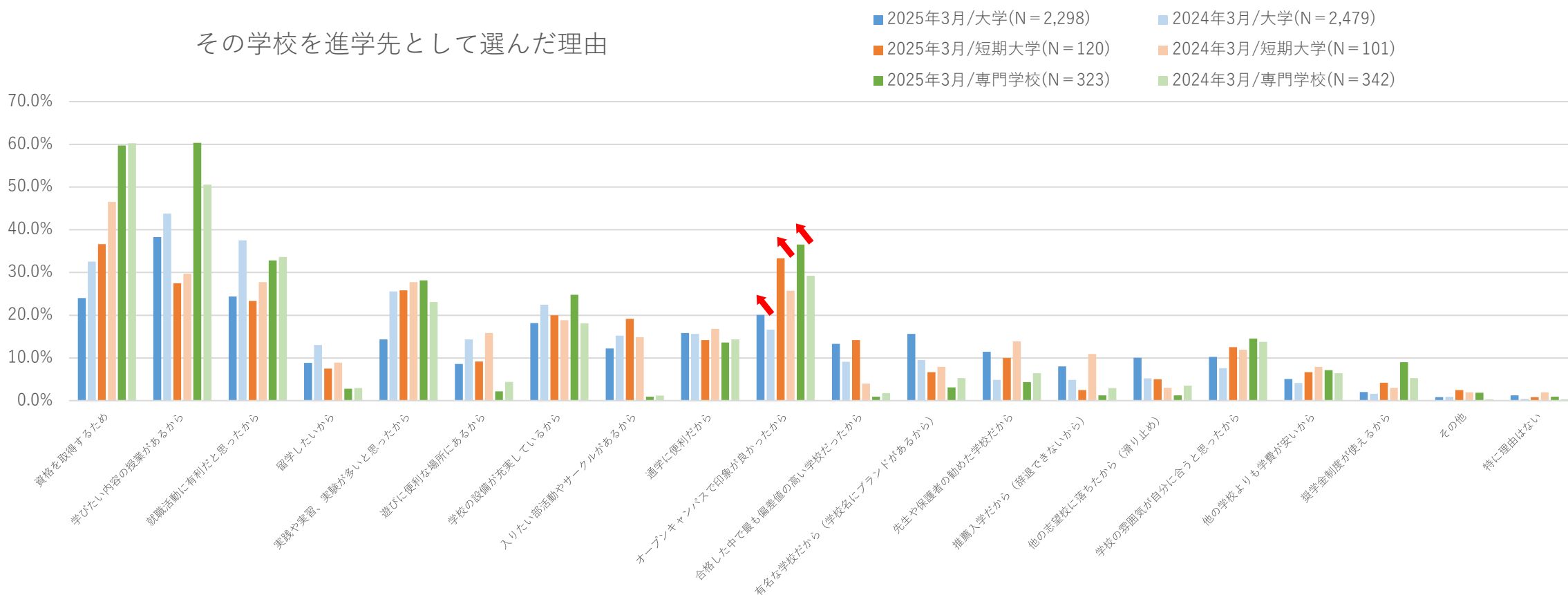
【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024/2025

その学校を進学先として選んだ理由（昨年比較）

全ての学校区分において「OCの印象が良かったため」との回答が増加

進学先として選んだ理由について聞くと、大学・専門学校では「学びたい内容の授業があるから」、短大では「資格を取得するため」がトップとなった。また全ての学校区分において「OC(オープンキャンパス)で印象が良かったから」と回答する割合が伸びた。コロナ禍が明け、実際に学校に訪問して見学できる環境に戻ってきているからこそ、OCが進路検討に影響していることが考えられる。



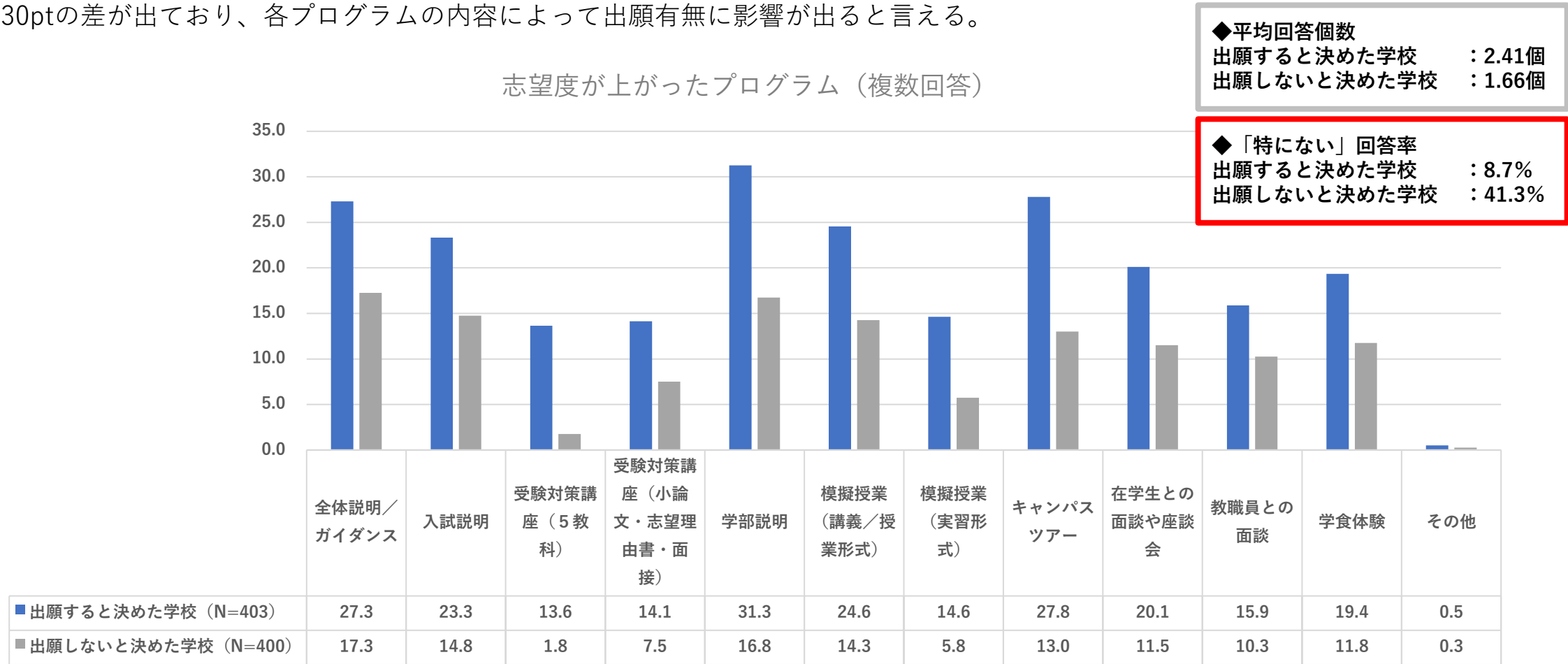
【参照元データ】

・ 高校生の進路意識と進路選択に関するアンケート調査2024/2025

イベント参加にて、学校の志望度が上がったプログラム

各プログラムの内容が出願に影響

イベント参加にて志望度が上がったプログラムについて、出願する/しないと決めた学校別で集めた。中でも「学部説明」と「キャンパスツアー」の回答割合において、約15ptの差が出た。また、「特にない」の回答率には約30ptの差が出ており、各プログラムの内容によって出願有無に影響が出ると言える。



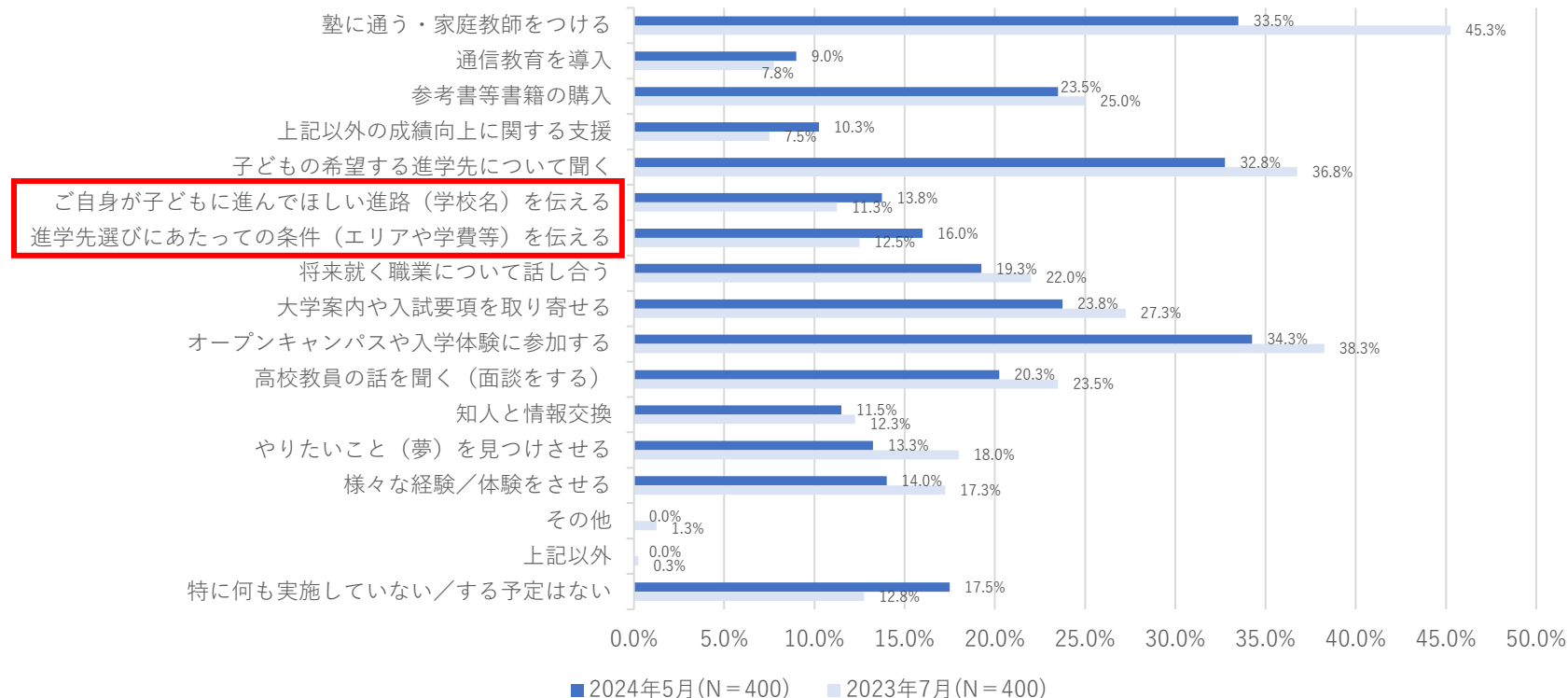
【参照元データ】
・オープンキャンパスに関する実態調査より

保護者が子どもに進んでほしい進路を伝えるケースが増加

高3の子を持つ保護者に対して進路支援として「取り組んでいる」もしくは「取り組む予定であること」を聞いた。
支援項目において「**自身が子どもに進んでほしい進路（学校名）を伝える**」や「**進学先選びにあたっての条件（エリアや学費等）を伝える**」との回答が増加しており、保護者が進んでほしい進路を伝えるケースが増加している様子がみられた。

進路支援として「取り組んでいる」もしくは「取り組む予定であること」

※該当年度の高3生を持つ保護者で比較



【参照元データ】

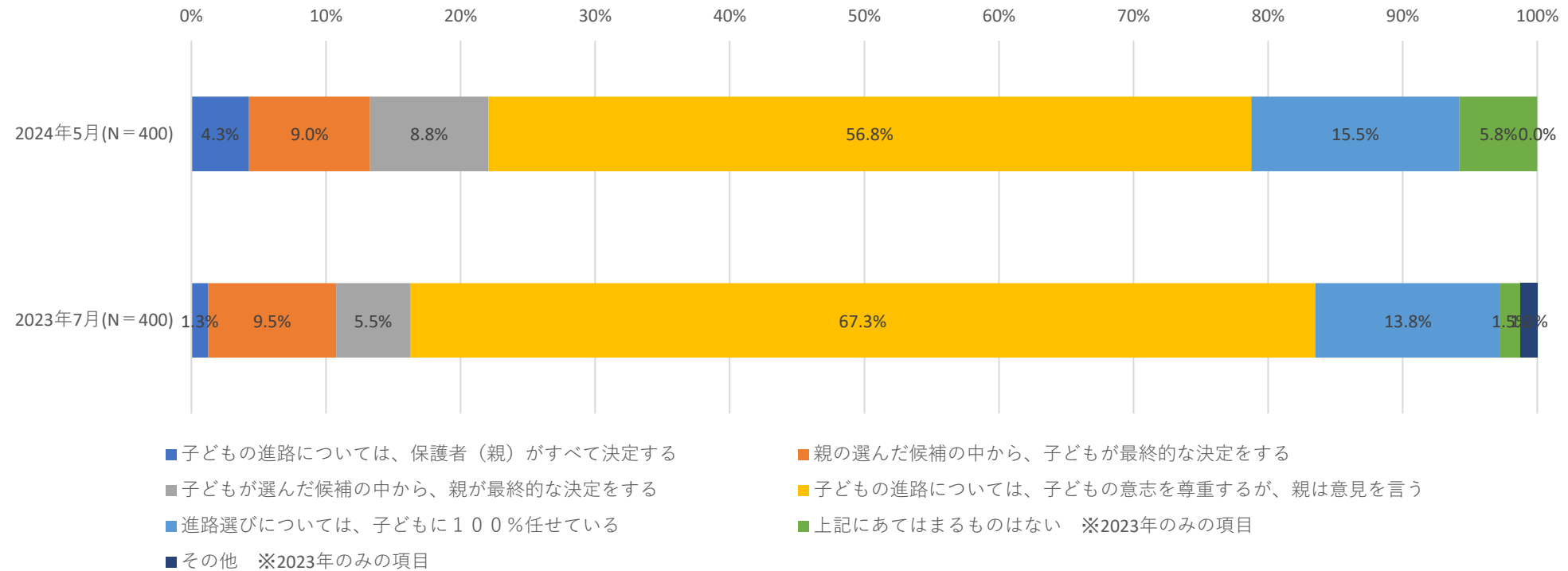
・高校生の進路に関する保護者調査2023年/2024年の高校3年生保護者のみ抽出

進路決定において保護者の意見が重要に

高3の子を持つ保護者に対して、進路支援に関する家庭状況を聞いたところ約8割の保護者が子どもの進路に対して意見を言っている結果となった。またそのうち2割以上が最終的な決定をしており、この割合は昨年の調査よりも増えている。前ページのデータでもあった通り、進路選択において保護者の声が強まっていることが伺える。

進路支援について、ご家庭の状況に最もあてはまるもの

※該当年度の高3生を持つ保護者で比較



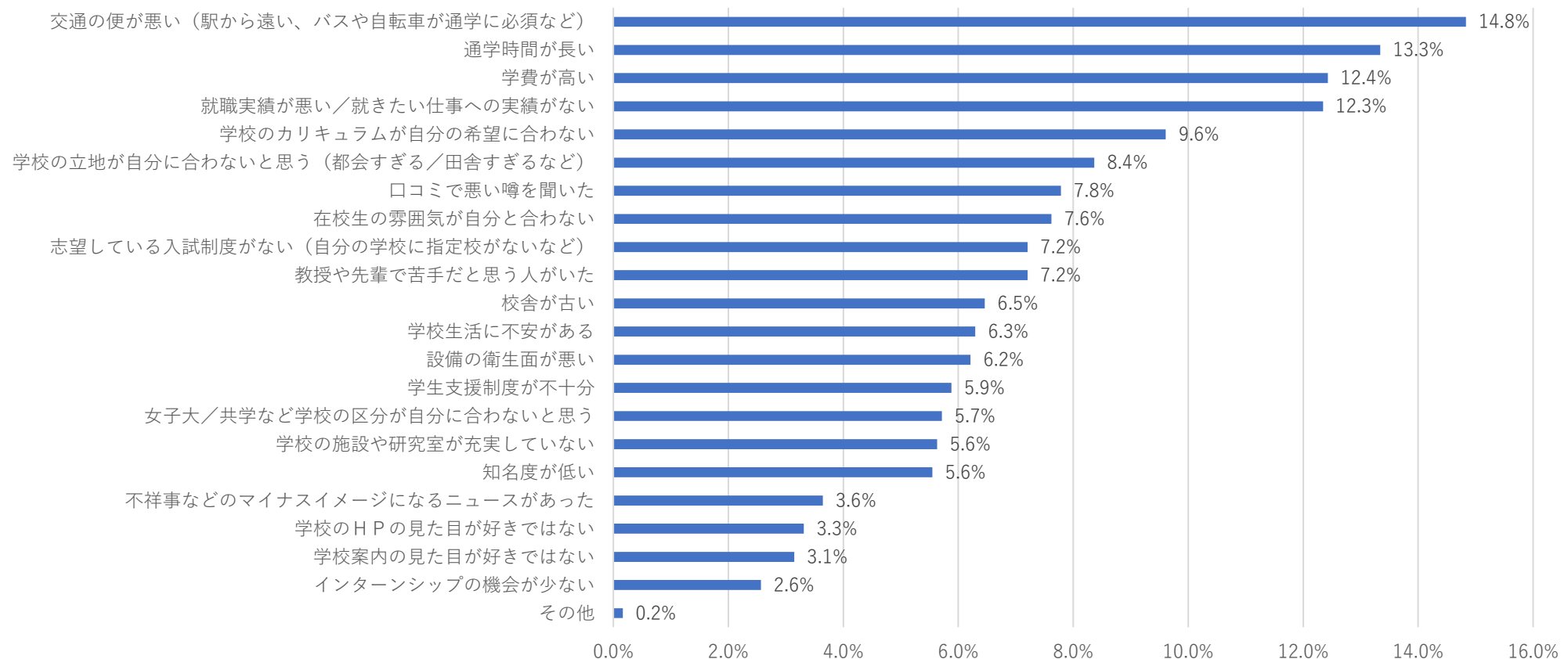
【参照元データ】

・高校生の進路に関する保護者調査2023年/2024年の高校3年生保護者のみ抽出

通学面・金額面のネガティブ要素は進路検討でマイナスにはたらく

進路検討の際に「マイナス」に作用する可能性が高い項目を聞いたところ、「交通の便が悪い」・「通学時間が長い」と回答する割合が高い結果となった。また、次いで「学費が高い」と回答する割合が高く、進学において金額面は切り離せない要因であることが改めて伺える結果となった。

進路検討の際に「マイナス」に作用する可能性が高い項目



【参照元データ】

・マイナビ進学会員定期調査2025年3月より高3のみ抽出



IV. 25年3月卒生の情報集め

一進学先の学校理解をどう向上させるか一

高校生は学年が上がるにつれ、進路検討の理解が深まる一方、
進学に対する不安も多く抱えている。

その中で進学検討中の学校で「学べる内容」が、本当に自分の「学びたい内容」と
マッチしているのか、しっかりと精査したい様子がみられる。

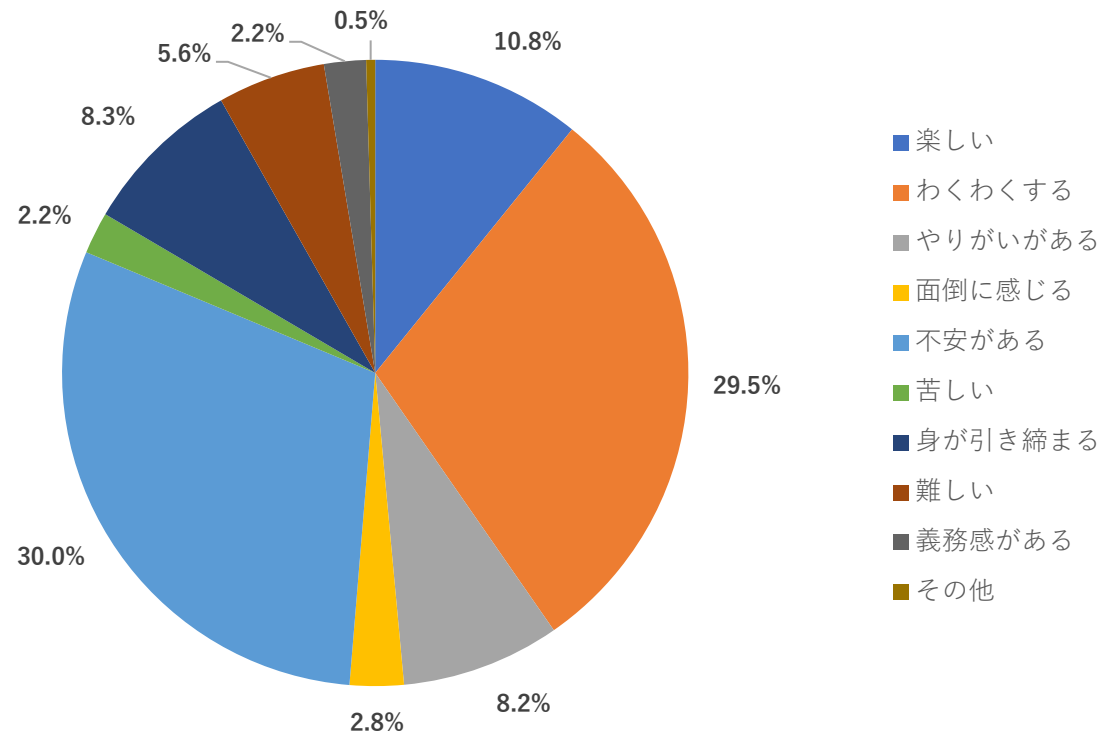
納得のいく進路選択ができるよう、
オープンキャンパスでの体験や、直近で進学をした先輩の事例などの
リアルな情報を求めている様子もある。

大学・短大・専門学校は出願の最終決定をしてもらうために、
より自校を検討している高校生に対して余すことなく魅力を伝えることが重要である。

将来についての「不安」と「わくわく」は、ほぼ同割合の結果に

進学することについての考えを質問したところ、わくわくすると回答した割合が58.2%との結果となった。一方で、自身の将来を考えることについてどのように感じるか質問したところ、「不安がある」と回答した割合は30.0%、「わくわくする」と回答した割合は29.5%となり、「不安」と「わくわく」はほぼ同じ割合の回答となった。進学まではわくわくすると回答しているものの、将来を考えると不安を感じる高校生が多い様子がみられた。

「自身の将来を考える」ことについて、どのように感じるか
(N=647 単一回答)



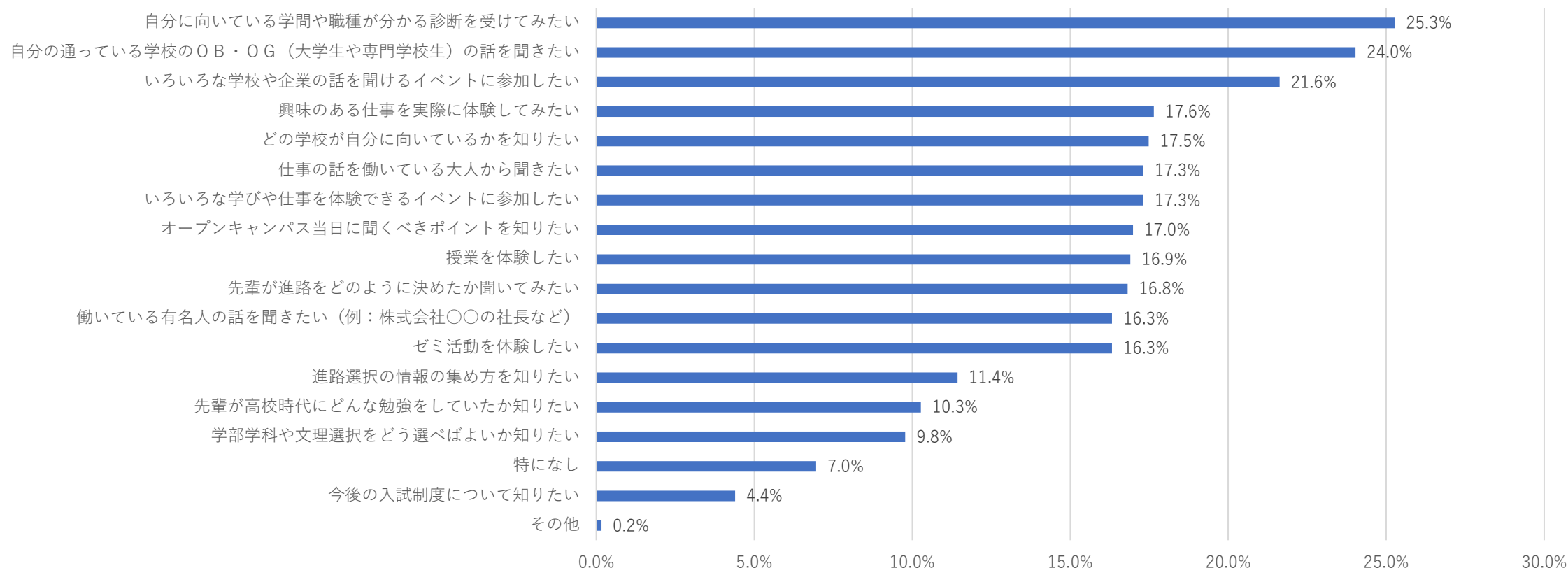
【参照元データ】

・マイナビ進学会員定期調査2024年12月より高3のみ抽出

自己分析と自分が通っている学校の先輩の話を聞きたいという声が多数

高校3年生に進路決定のために知りたかったことや、やってほしかったことを聞いたところ、「自分に向いている学問や職種が分かる診断を受けてみたい」が最も高い回答割合となった。次いで「自分の通っている学校のOB・OGの話を聞きたい」と回答している割合が高い結果となった。他の回答結果もふまえると、身近な他者の意見を聞き、実際に体験をしてみたいという声が高まっている様子が見てとれる。

進路決定のために知りたかったこと／やって欲しかったこと



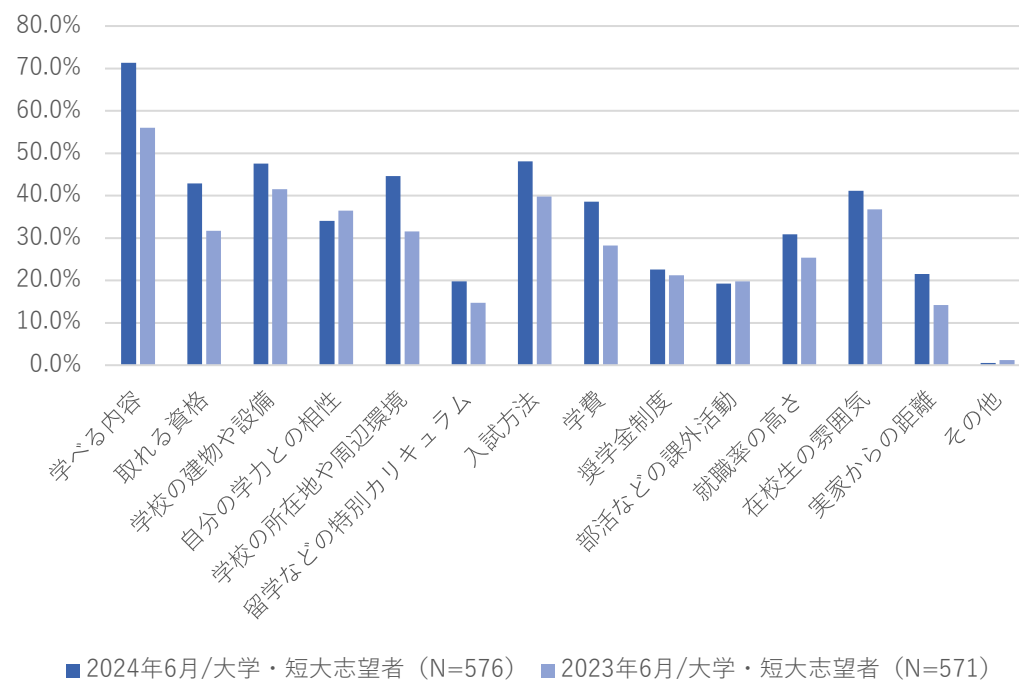
【参照元データ】

・マイナビ進学会員定期調査2025年3月より高3のみ抽出

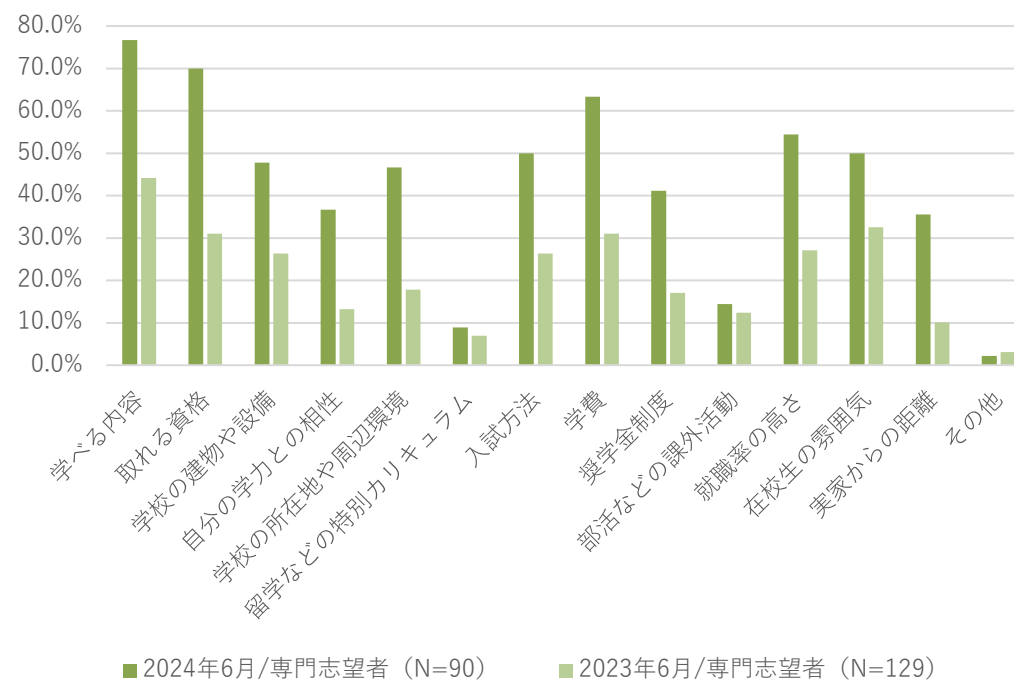
オープンキャンパスで知りたい情報は「学べる内容」

オープンキャンパスで知りたい・チェックしたい情報を聞いたところ、学校種別に関わらず「学べる内容」が昨年同様に最も多い回答となった。また、大学・短大では次いで「入試方法」、「学校の建物や設備」が多い結果となった。一方で専門学校は「取れる資格」が次いで多い結果となった。

大学・短大志望者



専門学校志望者



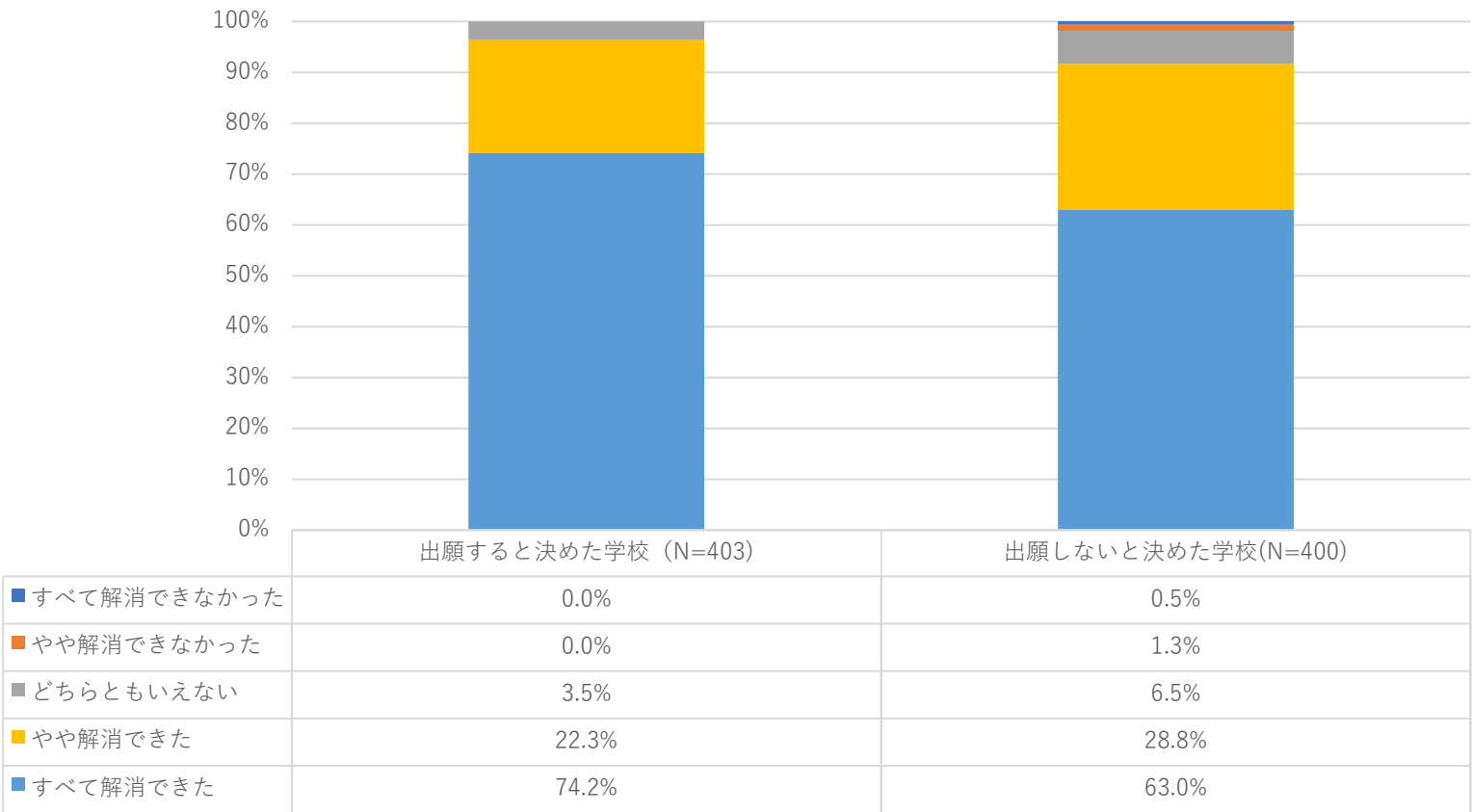
【参照元データ】

・マイナビ進学会員定期調査2024年6月/2023年6月より高3のみ抽出

出願においてイベント参加時に“漏れなく疑問を解消できるか”が重要

イベント参加時に事前に知りたかったことを解消できたかどうかを、出願する/しないと決めた学校別できいた。
9割以上の高校生は、イベント参加で事前に知りたかったことを解消できている様子がみられた中、「全て解消できた」かどうかについては出願する/しないと決めた学校とで11.2ptの差が出ていた。疑問の解消度の小さな差が出願に影響していると考えられる。

イベント参加で事前に知りたかったことを解消できたか（単一回答）



【参照元データ】
・オープンキャンパスに関する実態調査より

情報収集後の検討や決断において、多くの悩みを抱えている様子

「志望校を決めた際、苦労したことや迷ったこと」について回答いただいた内容を、下記に一部抜粋して記載しています。

- ・本当に自分のやりたいこと、**学びたいことが実現できる学校なのか、見極めること**
- ・その大学を卒業することで将来自分がなにができるかを考えるのに苦労しました。
- ・自分が**なりたい職業に就くにはどの学科に行くのが最も最適なのか**を考えること。
- ・高校3年生になって、志望学部を理系から文系に変更したので、受験勉強のスタートが出遅れたこと。
- ・学力は自分に合っていても、学校の立地や雰囲気が自分に合うか、悩むことが多かった。
- ・**学科は決まってもそれぞれの学部で何が違うのかがよく分からなかった**
- ・候補の各大学の制度やカリキュラム、特徴などを全て調べるのはとても時間がかかったこと
- ・それぞれの大学の良い点を比べた際、**片方の大学にはあってももう片方の大学にはない利点があったので悩んだ。**
- ・自分のレベルに合ってるのか？または、そのレベルが高くて最後まで勉強することができるのか？不安と心配で迷った。
- ・クチコミとかパンフレットにない情報、就職先、ゼミの内容などが詳しく調べきれなかった。
- ・口コミやイメージなどは年々変化していくため古いデータにならないように気をつける必要があった。
- ・**専門学校と短大はなにが違うのか、それぞれどのような良さがあるのかを調べることに苦労した。**
- ・夏まで部活をしていて、学力がない中で志望校を決めないと行けなかったこと。
- ・**希望の学部すら決まっていない状態から、オープンキャンパスに参加したので、どの学校のオープンキャンパスに参加するか迷った**
- ・世の中のことをあまり理解できていないので、親や教師の意見を参考にして進路を考えたが、納得した答えが出せずに苦労した。
- ・**夏休みにオープンキャンパスの機会があったが、その後に志望校が変わって、見に行けなかった。**
- ・パンフレットを何回も読んでるが、入試制度が未だによく分からない
- ・志望校はひとつに絞らず、見学は沢山したほうが良いと思った。
- ・実際に選んだ**大学でどう4年間過ごすかイメージすることに苦労した**
- ・大学無償化の対象でない学校を選ぶ時に**お金の問題が一番悩みで、2番目に行きたい学校に変更すべきか迷いました。**
- ・自分が本当に学びたい学科がある大学を探し、**今の自分の偏差値よりレベルの高いところにするべきかレベルを下げるべきか悩みました。**
- ・第一志望校に目線向け過ぎたあまり他の大学(私立)を調べるのが厳しかった事
- ・HPやパンフレットには不便だった点などマイナスの点を書かないことが多く、**口コミや先輩からの声をよくみるようにしていた。**

【参照元データ】

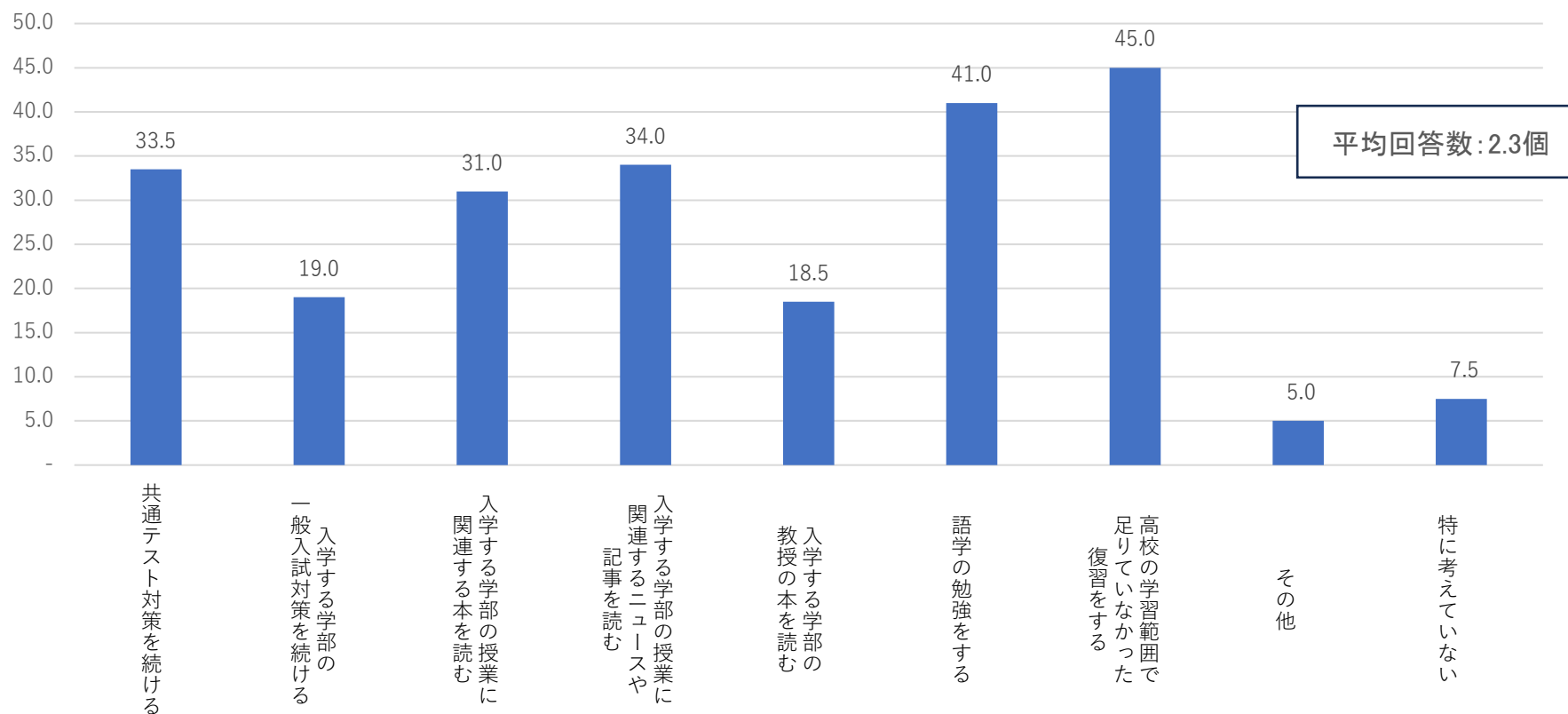
・マイナビ進学総合研究所 2025年1月実施調査より一部抜粋

“年内入試で合格した学校”に入学までに準備しようと思っていること

入学前に準備することは「高校の復習」と「語学の勉強」

総合型選抜・推薦型選抜入試にて合格した学校に入学までに準備しようと思っていることを聞くと、「高校の学習範囲で足りていなかった復習をする」と回答した子が45.0%、「語学の勉強をする」と回答した子は41.0%との結果となった。また、「共通テスト対策を続ける」と回答した子が33.5%おり、年内入試合格後も継続して年明け入試の対策をする高校生が一定数いることが見て取れる。

入学までに準備しようと思っていることを全て選択してください。(N=200)



【参照元データ】

・総合型選抜・推薦型選抜に関する高校生の意識調査



V.2026年3月卒（新高校3年生）の展望

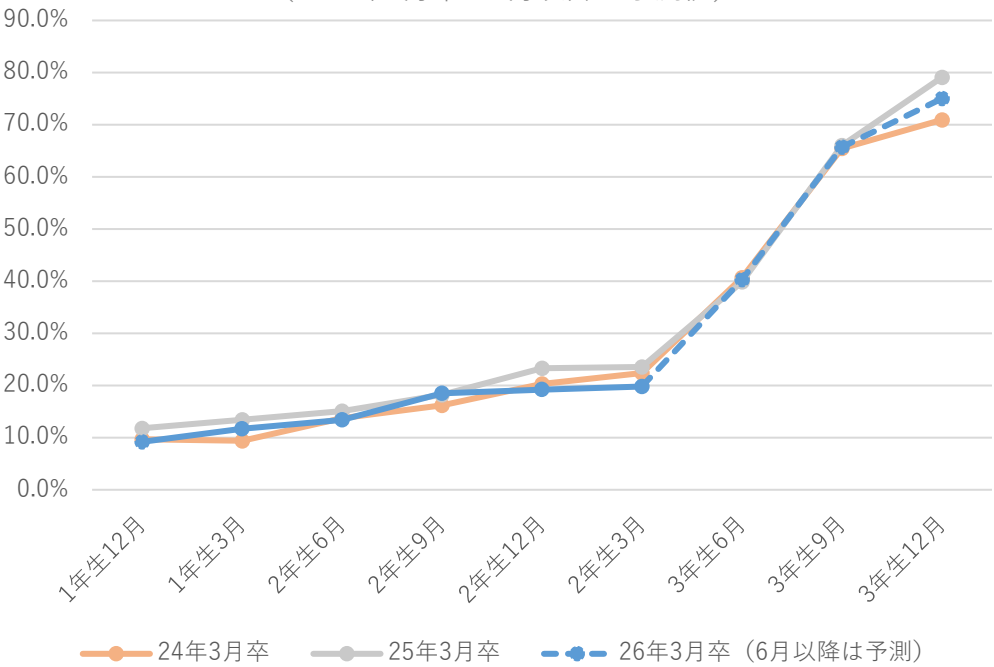
ニーズに合わせた情報提供が重要

1. 26年3月卒は新課程での共通テストが2年目となる学年。難化予測もあり一般受験回避の想定もありうる。また、大学での総合型選抜を始めとした年内入試の拡充により、25年3月卒より進路決定は早くなると予測される。
2. 昨今の高校生は進路検討において、情報を集めることに長けているため
高校生の「学びたい内容」にマッチさせる情報を発信することが求められている。
3. 高校生が求める情報については1・2年生と3年生で異なる。
各学校ごとの募集戦略に合わせ、提供する情報を精査する必要がある。

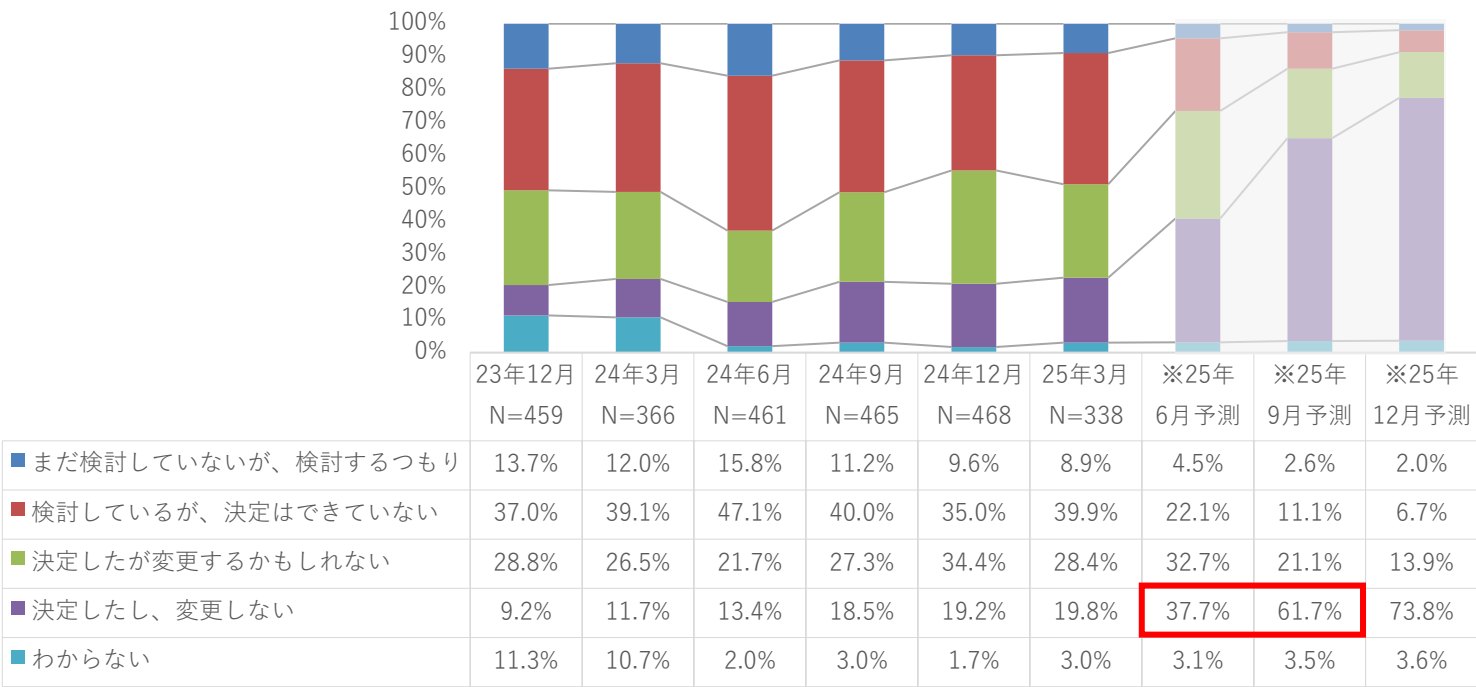
進学先の決定は、直近2年の高校生と同じ時期と予測

26年3月卒の進学先決定時期を予測した。26年3月卒の2年生3月までの進路決定割合は、直近2年間で似た数値となっており26年3月卒についても直近2年間の高校生と近い時期に進路を決定すると予測される。
昨年同様に進路を“決定したし、変更しない”高校生の割合は、6月頃には35%を越し、9月には60%を超す予測。

第一志望学校の検討状況について
「決定したし、変更しない」と回答した割合
(※26年3月卒の6月以降は予測値)



26年3月卒（新高校3年生）の第一志望学校の検討状況について
(※25年6月以降は過去3年の数値平均での予測値)



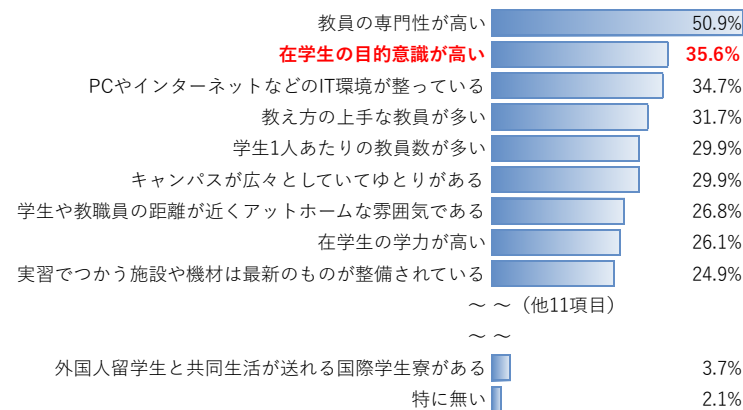
【参照元データ】
・マイナビ進学会員定期調査2023/2024/2025

高校生にニーズの高い情報は“先輩の声”

過去実施した調査を元に高校生が必要としている情報について確認したところ、「在校生」・「卒業生」の先輩の声を必要としている様子が複数の調査から共通してみられた。

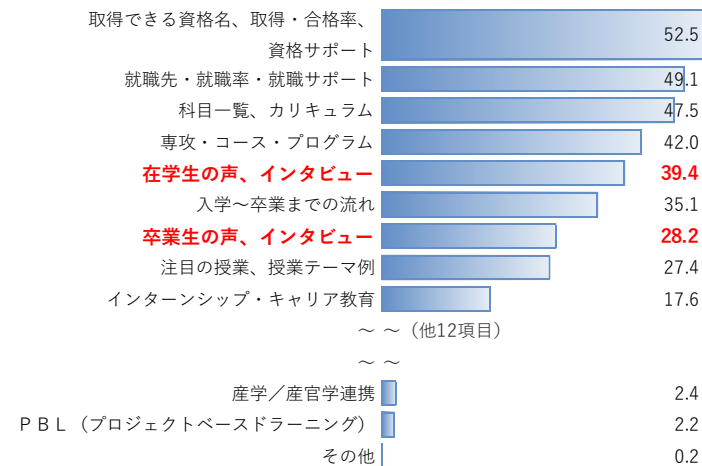
また、保護者向け調査においても同様に「在校生」・「卒業生」の先輩の声を必要としている様子がみられた。

Q.自分の能力を伸ばす上で魅力的・重要と感じた教育内容や学習環境はどのようなものですか？（N=884）



【参照元データ】
・学校案内・パンフレットや学校公式WEBサイト等に関する
高校生の意識調査（2023）

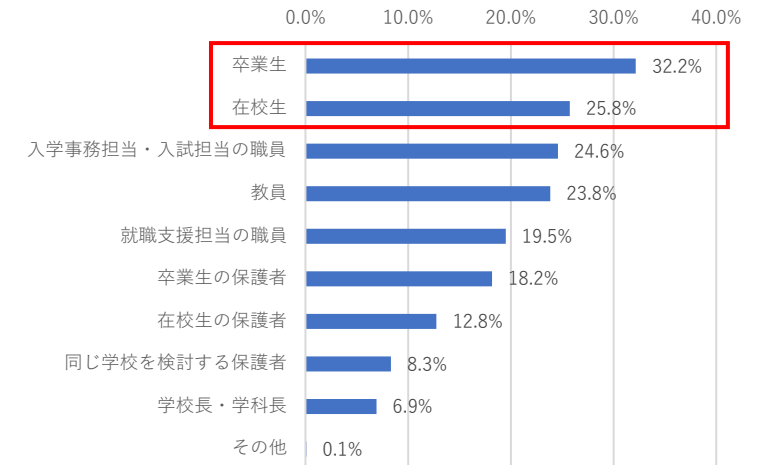
Q.(学校案内を見る際)「学部学科」や「学びの特徴」「学べる内容」の説明ページにおいて、どんなキーワードに目が引かれますか？（N=1,855）



【参照元データ】
・学校案内に関する高校生の意識調査（2024）

※保護者向け調査の回答

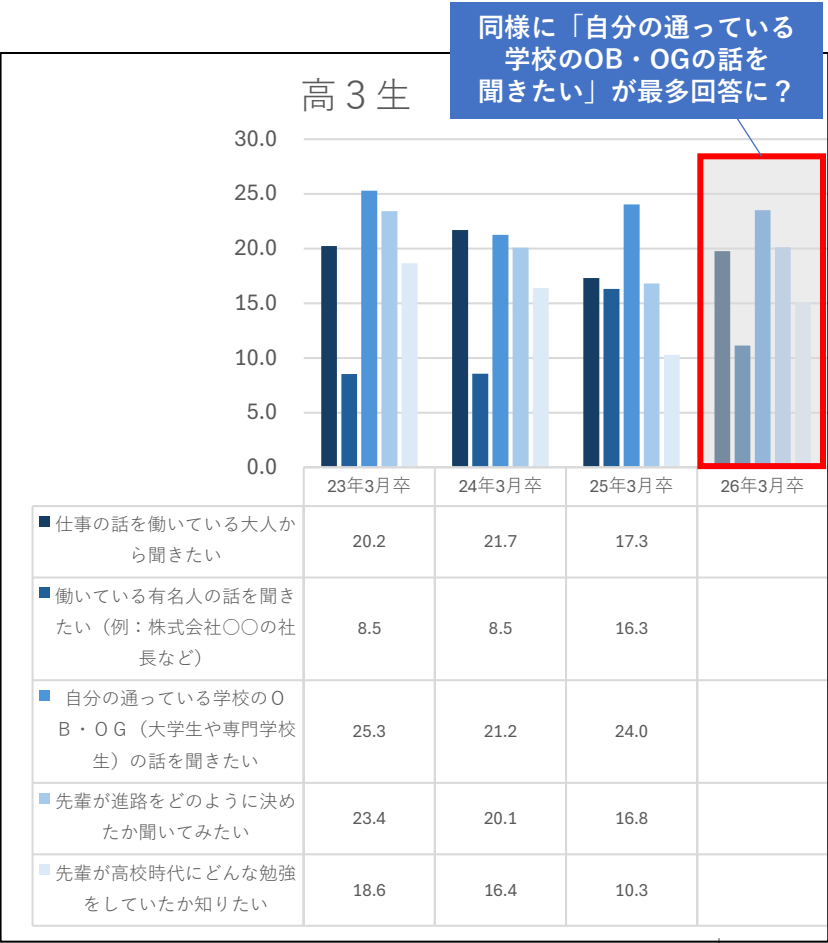
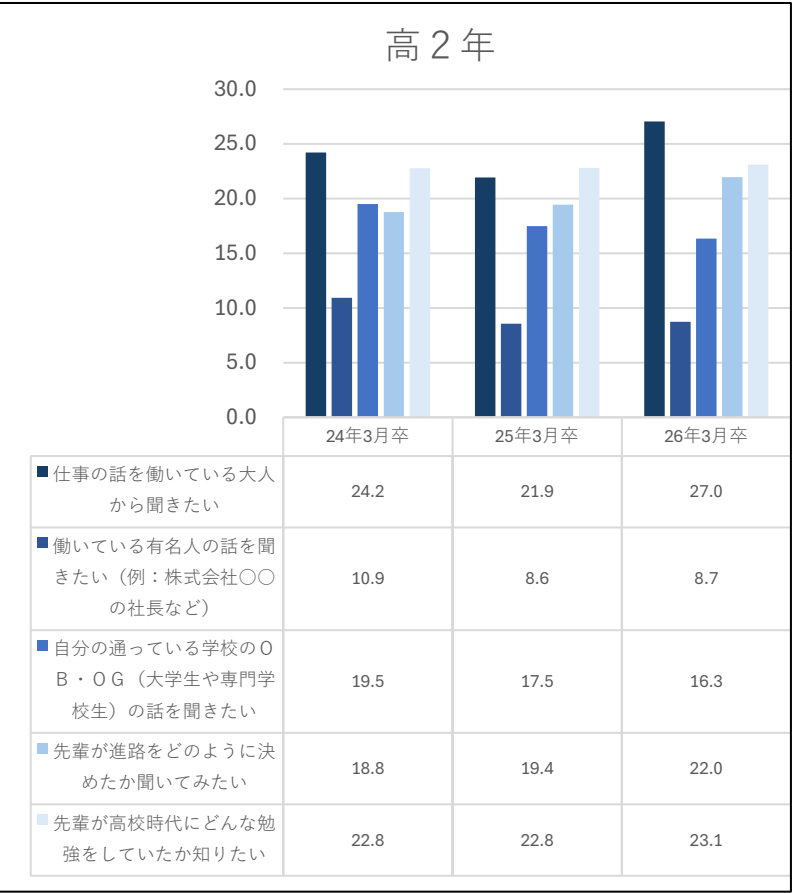
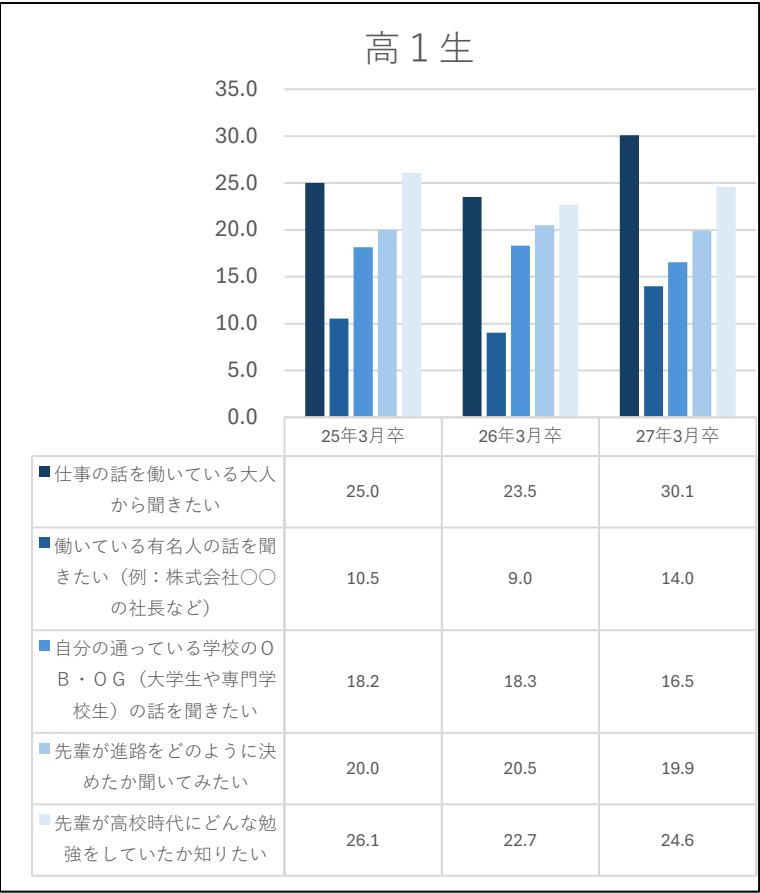
Q.あなたが進学検討時に話を聞いてみたい人（学校関係者）について、あてはまるものを選択してください。（N=1,200）



【参照元データ】
・2024年 高校生の進路に関する保護者調査

3年生は直近で卒業した先輩の話を知りたい

高校生にニーズの高い“先輩の声”について、より情報を具体化するために詳しい分析を行った。その結果、1・2年生は先輩談の中でも「仕事の話」や「高校時代に勉強していたこと」を知りたい様子がみられた。
3年生は「自分の通っている学校のOB・OGの話を知りたい」との回答割合が高く、自分に近い先輩の話を知りたい様子がみられた。





本データを出版・印刷物、WEBサイト等へデータを転載する際には、「※調査名」（マイナビ進学総合研究所調べ）と明記ください。

資料に関するご質問等に関しては下記までご連絡ください。

株式会社マイナビ 未来応援事業本部 マイナビ進学総合研究所

E-mail : ms-souken@mynavi.jp

URL: <https://souken.shingaku.mynavi.jp>